

第2章 外国語活動、外国語科における考え方と実践例

1 外国語活動、外国語科において課題を解決するために必要な資質・能力とは、どのようなものか

本教科等においては、【資料1】に示すとおり小・中・高を通じてコミュニケーション能力の育成を目指している。そのため、外国語活動においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語への慣れ親しみ」、「言語や文化に関する気付き」を、外国語科においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」を育むことが大切である。外国語活動、外国語科においては、これらを「課題を解決するために必要な資質・能力」と考え、学校教育法で示されている学力の三要素との関連から、【資料2】のように整理した。

課題の解決に向けては、次の点に留意する。まず、「言語や文化についての知識・理解」については、単に習得を目指すものではなく、それらを用いて何ができるかが重要となる。

また、「外国語への慣れ親しみ」、「外国語表現・理解の能力」については、必要な情報を把握するとともに知識・技能を活用しながら課題解決に向けて思考する力や、課題解決に必要な情報や方法を選択したり、結論を出したりするために判断する力、伝える相手や状況に応じて表現する力として捉える必要がある。そして、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については、主体的に学ぶ態度、学びに向かう力の育成に加えて、多様性を尊重し、互いのよさや考えを認め合う態度の育成に留意する必要がある。また、課題解決に向けた様々な場面において、児童生徒が自己の高まりや修正点を客観的に捉える力を育むことも大切である。

【資料3】は、課題解決的な学習過程において表出させたい児童生徒の姿と、資質・能力との関連を例示したものである。指導に際しては、これを踏まえた具体的な指導計画の作成や、児童生徒への働き掛けが必要となる。

【資料1】 学習指導要領における外国語活動、外国語科の目標

【小学校学習指導要領（外国語活動）】

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

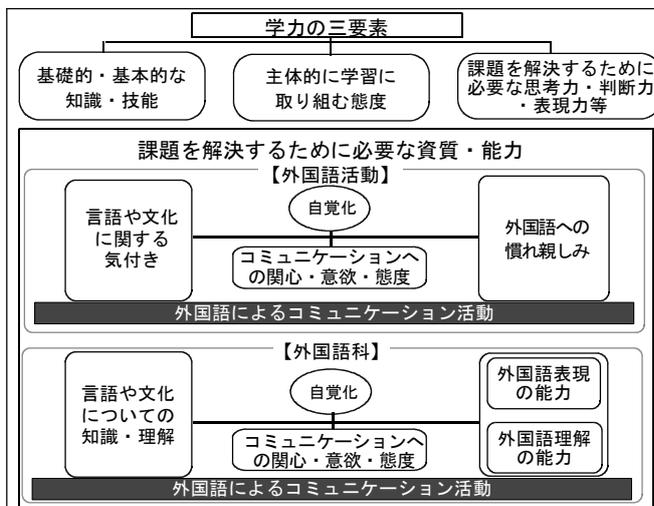
【中学校学習指導要領（外国語科）】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

【高等学校学習指導要領（外国語科）】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

【資料2】 課題を解決するために必要な資質・能力



【資料3】 課題解決的な学習の過程における具体的な児童生徒の姿の例

- ① 言語や文化についての知識・理解（言語や文化に関する気付き）
- ② 外国語表現の能力、外国語理解の能力（外国語への慣れ親しみ）
- ③ コミュニケーションへの関心・意欲・態度

学習過程	具体的な姿の例	①	②	③
課題把握	目的意識や相手意識をもち、必要な情報を収集することができる。	○		◎
	情報を整理、焦点化し、自ら課題を明確にすることができる。	○	◎	
課題追究	課題解決に必要な知識・技能を明確にすることができる。		◎	
	目標を自覚したり、学習する意義を見いだしたりすることができる。			◎
	課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる。			◎
	課題解決に必要な新たな知識・技能を習得したり、既習の知識・技能とともに活用したりすることができる。	◎	◎	
課題解決	収集した情報を基に、目的や相手に即して自分なりの考えをもつことができる。		◎	○
	他者との意見交換等を通して、考えを広げたり、深めたりすることができる。		◎	◎
	自分の考えが相手に伝わるように、適切な語彙や表現を選択して話したり、書いたりすることができる。		◎	○
課題解決	自分の学習状況を振り返り、学んだことの価値や高まり、今後の努力点等に気付くことができる。			◎
	学習して身に付けたことを実生活に生かそうとすることができる。	○	○	◎

◎ 主に育成する資質・能力 ○ 付随して育成される資質・能力

2 外国語活動、外国語科の授業において解決に取り組みさせるべき課題は、どうあるべきか

(1) 課題設定の視点

【資料4】は、課題解決のために必要な資質・能力の育成に資する課題設定の視点を整理したものである。特に、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を育成する視点からは、児童生徒の興味・関心に即したものであり、解決したいという意欲を高めることができる課題設定に努める。「外国語への慣れ親しみ」、「外国語表現・理解の能力」を育成する視点からは、慣れ親しんだ外国語の表現や、習得した言語材料を適切に用いた、ペアやグループによる活動や話し合いを通して、自分の考えを深めたり、修正したりできる課題設定に留意する。また、「言語や文化に関する気付き」、「言語や文化についての知識・理解」を育む視点からは、英語と日本語の相違点を含んでいたり、知識・技能の習得が活用を通して促されたりするような課題を設定する。

本教科等においては、これまでも、ペアワークやグループワークが積極的に取り入れられているが、知識・技能の習得や個々の考えの一方的な表現活動にのみ焦点を当てたものにならないようにすることが重要である。課題設定の際は、児童生徒の発達の段階を考慮し、解決に向かう過程で、満足感や成就感を味わいながら、知識・技能の定着が図られるよう留意したい。

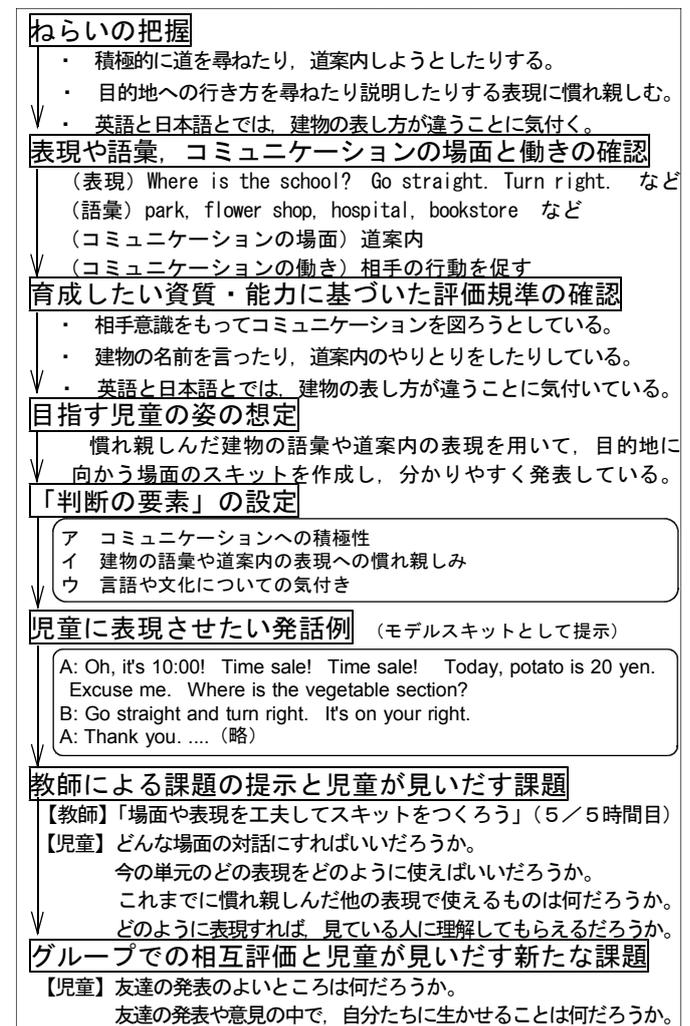
(2) 指導と評価の一体化の工夫

課題解決の過程で、児童生徒は英語を話ししたり記述したりする。そこで、【資料5】、【資料6】のそれぞれに示すように、評価基準に沿って「判断の要素」や「判断基準」を設定し、単元終末に児童生徒に表現させたい発話や筆記の例を授業の前に想定しておくことが、指導と評価の一体化を図る上で大切になる。目指す児童生徒の姿に向けて、単位時間における教師の働き掛けの視点が明確になり、単元全体の指導を意図的、計画的に行うことができるからである。

【資料4】 課題解決のために必要な資質・能力の育成に資する課題設定の視点

学力の要素	資質・能力	課題設定の視点
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味・関心に即しており、解決したいという意欲を高めることができる。 児童生徒が自分と関係のあることとして捉えることができる。
課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	外国語への慣れ親しみ(外国語活動) ----- 外国語表現の能力 外国語理解の能力(外国語科)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション活動を体験する中で、必要な語彙や表現を自然に繰り返し使う機会がある。 児童が慣れ親しんだ語彙や表現を、目的や相手に応じて適切に選択し発話することができる。 ペアやグループでの活動や話し合いを通して、児童が自分の考えを広げたり、深めたり、修正したりすることができる。 与えられた場面や情報を基に思考、判断したことを、英語で適切に話したり、書いたりするなどの、4技能を統合的に活用することが求められ、解決する過程を通して、思考力、判断力、表現力を総合的に向上させることができる。 ペアやグループでの活動や話し合いを通して、生徒が自分の考えを広げたり、深めたり、修正したりすることができる。
基礎的・基本的な知識・技能	言語や文化に関する気付き(外国語活動) ----- 言語や文化についての知識・理解(外国語科)	<ul style="list-style-type: none"> 音声や基本的な表現、文化について、英語と日本語との類似点や相違点を含んでいる。 基礎的・基本的な知識・技能を活用する機会があり、解決する過程を通してその習得が促進される。

【資料5】 単元における課題設定の手順例(外国語活動)



(3) 単元における課題の設定例

ア 外国語活動

外国語活動では、実生活に関わる場面で、相手意識をもって、慣れ親しんだ表現等を用いてコミュニケーションを図らせるような課題が考えられる。具体的には、単元終末に行うインタビュー、ロールプレイ、スキットなどである。

例えば、「ALTを図書館まで案内しよう。」などのように、身近なコミュニケーションの場面を教師が示して児童に取り組みさせる課題や、【資料5】のように、どのような場面で、どのような表現を使って道案内をするのかを児童自身に自由に選択させるような課題が考えられる。検証授業においては、後者の課題を設定した。

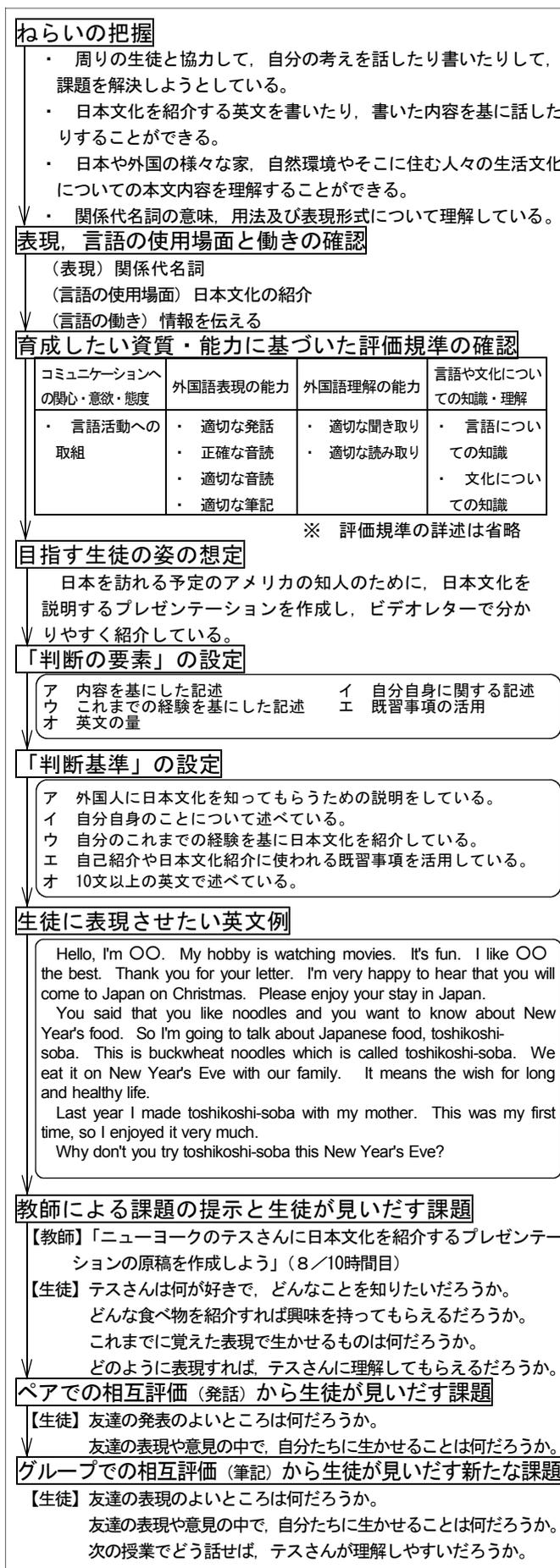
イ 外国語科

外国語科においては、情報や相手の考えを的確に理解した上で、自分の考えなどを聞き手や読み手を意識しながら適切に表現させるような課題が考えられる。

検証授業においては、高等学校では、教科書を読んで理解したことを基にして、ある人物の生き方に関する自分の感想を、グループ活動を通して表現させる課題を設定した。また、中学校においては、【資料6】のように、海外の知人からのビデオレターやメールの内容を的確に理解した後に、相手の求める情報等を書かせたり、言わせたりするなどの、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能を統合的に活用させる課題を設定した。

課題設定に当たっては、児童生徒がそれまでに慣れ親しんだ基本的な表現や、習得した言語材料の中から、適切なものを選択したり、表現の仕方を工夫したりしながら、解決に取り組むことができるように留意したい。

【資料6】 単元における課題設定の手順例（中学校外国語科）



3 外国語活動、外国語科において児童生徒が主体的・協働的に学ぶためには、どのような工夫が効果的か

主体的・協働的な学びを成立させるためには、【資料7】のような視点に立った授業展開を心掛けることが重要である。

主体的な学びについては、児童生徒にとって実生活との結び付きが強く、切実であると感じられる課題に取り組ませることが大事である。特に、課題解決に向けた見通しをもたせたり、活動後の振り返りの場面で自分の成長を感じさせたりすることを大切にしたい。

【資料5】、【資料6】に示した「判断の要素」や「判断基準」を事前に示したり、考えさせたりしておくこと、児童生徒は見通しをもって課題解決に取り組むことができるとともに、自分の成長について振り返ることができる。

また、協働的な学びについては、児童生徒が互いに協力したり、助言したりする必然性のある課題に取り組ませることを重視したい。

その際、当センターが提唱している「判断の要素」や「判断基準」を教師と児童生徒が共有すれば、ペアやグループでの話し合いの活性化や適切な相互評価につながる。

取り組ませるべき課題や言語活動については、【資料7】に示す視点から適切に設定することにより、主体的・協働的な学びの活性化が期待できる。

【資料8】は、高等学校における、読んで理解した内容を基に自分の意見を含めて英文を書く活動の例である。本実践においては、本文を理解する場面と自分の考えなどを表現する場面のそれぞれでペアワークやグループワークを行い、最終的には「判断基準」を共有して、各グループで一つの作品を仕上げ、発表する活動を行っている。

このように、課題解決の見通しをもたせた上で学び合いが行われる場面を設定したり、振り返りの場面で相互評価を行わせたりすることで、課題解決に必要な資質・能力を高めるための活動を充実させることができる。

【資料7】 主体的・協働的な学びを成立させる視点（例）

視点	教師の手立ての工夫
主体的な学びに関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実生活との結び付きが強いなど、自分にとって切実であると感じられる課題に取り組ませる。 ・ 聞いたり読んだりした内容について思考・判断したことを表現するまでの過程を示したり、児童生徒自身に考えさせたりする。 ・ 課題解決に必要な語彙、表現やその習得の方法について示したり、生徒自身に考えさせたりする。 ・ 個人で語彙や表現を習得したり、自分なりに活用したりする機会を与える。 ・ 課題解決過程や身に付けた知識・技能について振り返らせ、自分の成長を感じさせる。
協働的な学びに関わること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多岐にわたる情報について思考・判断し、目的や相手に応じて表現することが求められるような、一人では解決が容易ではない課題に取り組ませる。 ・ 聞いたり読んだりしたことを理解し、考えや意見、感想を述べたり書いたりするような、他者の多様な意見を取り入れることでよりよい解決に近づくことができる課題に取り組ませる。 ・ ペアやグループで、理解したことや表現したいと思っていることについて伝え合い、互いに助言できる機会を与える。 ・ ペアやグループで話し合う際の視点を、児童生徒同士で共有させる。

【資料8】 設定した「判断基準」と生徒の表現の例（高等学校）

課題：二重被爆の経験をもつ方の思いや夢を読み取り、それについて自分の考えを述べる。

目指す生徒の姿の想定

山口さんの経験や平和に対する思いや夢について、4人グループでの話し合いを通して要点をまとめ、自分の考えを含めて英文で表現している。

教師と生徒、生徒同士で共有した「判断基準」

- ア 山口さんの夢とは何かを述べている。
- イ それについて賛成か反対かを述べている。
- ウ そう思う理由や意見を述べている。
- エ 5文以上の英文で書いている。

教師が想定した英文

I think his dream was to make a world without nuclear weapons. I agree with him. The suffering in Hiroshima and Nagasaki should never happen again. I want all the people around the world to live in a peaceful world. We need no nuclear weapons.

生徒が個人で表現した英文

I agree with him. Because I hope that we never use and have atomic bombs, too. I want the world to be peaceful. And I pass on his dream to young people.

話し合いによりグループで表現した英文

I think his dream was to convey the importance of peace to young people. I agree with him. We should tell it to not only Japanese people but also people around the world. I hope that we should never have or use atomic bombs. I want the world to be peaceful.

【平成27年度調査研究発表会】
第5分科会 【外国語活動, 外国語科】

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
 —主体的・協働的に学ぶ学習の工夫を通して—



新しい**自分発見**教育センターで...
 ～学びの一步, 還元の二歩～

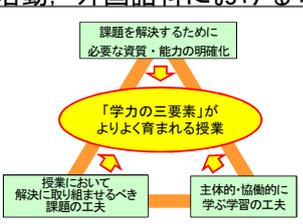
鹿児島県総合教育センター
 教科教育研修課

1

発表内容

I 研究主題に関する基本的な考え方
 1 研究主題設定の理由
 2 教員の意識や取組に関する調査の結果

II 外国語活動, 外国語科における考え方



2

研究主題設定の理由～今日的な教育の動向～ p.1

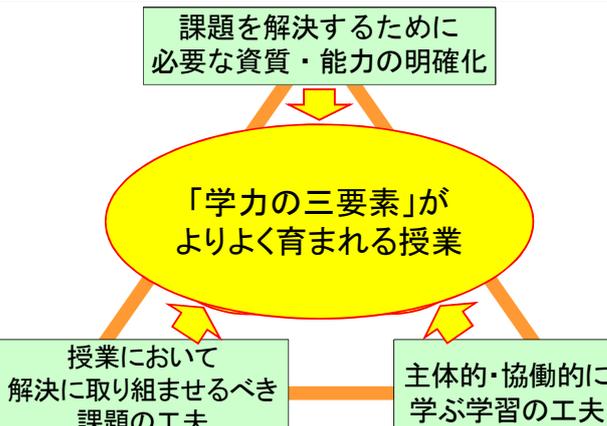
子供たちが社会において直面する課題とは？
 → 複雑, 未知, 答えが多様で正答の定まらない課題と直面

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」
 平成26年11月20日

(中略)
 そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「**どのように学ぶか**」という、**学びの質や深まりを重視**することが必要であり、課題の発見と解決に向けて**主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)**や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

3

研究主題設定の理由～研究内容～ p.1

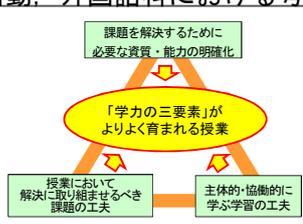


4

発表内容

I 研究主題に関する基本的な考え方
 1 研究主題設定の理由
 2 教員の意識や取組に関する調査の結果

II 外国語活動, 外国語科における考え方



5

課題を解決するために必要な資質・能力とは p.12

課題を解決するために必要な資質・能力

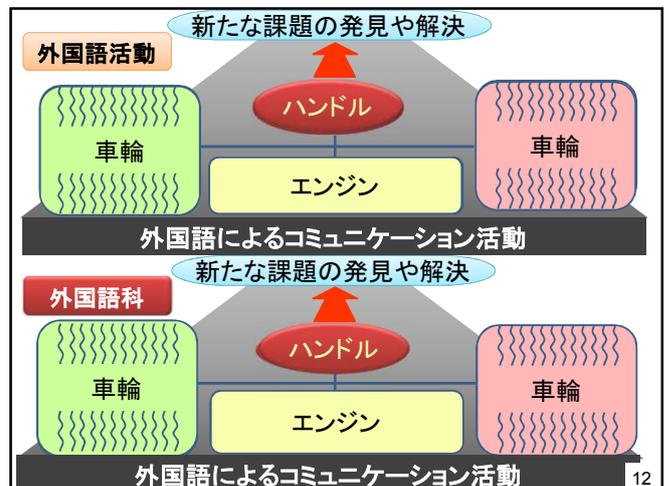
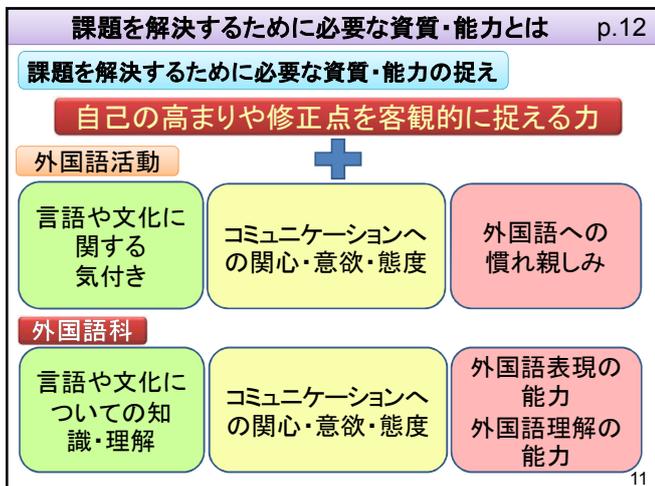
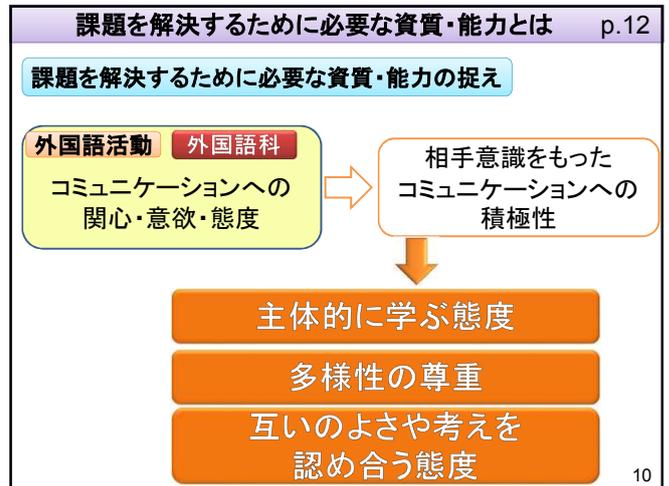
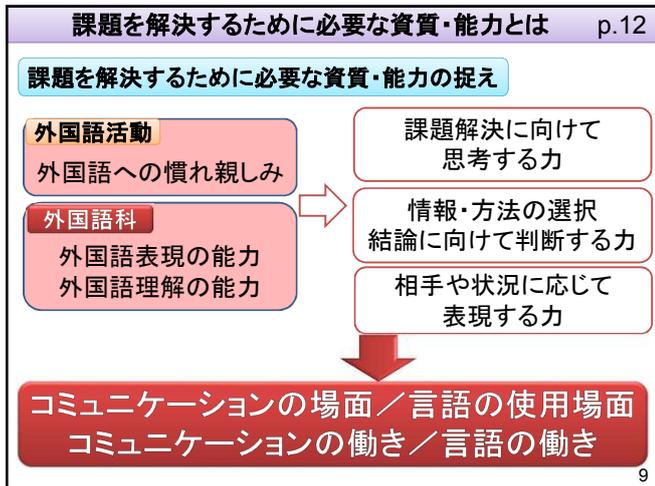
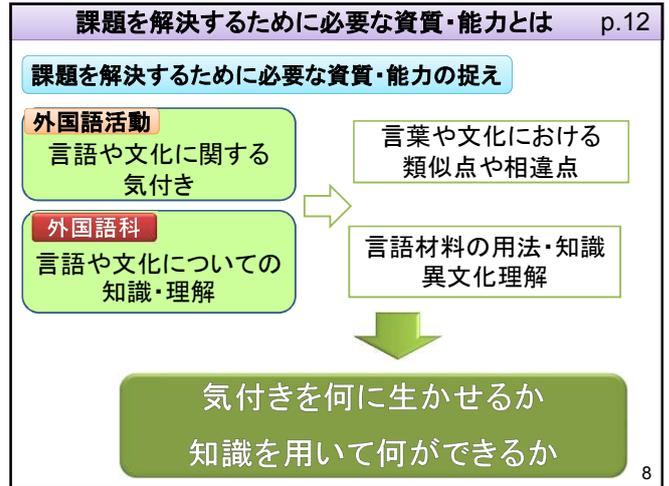
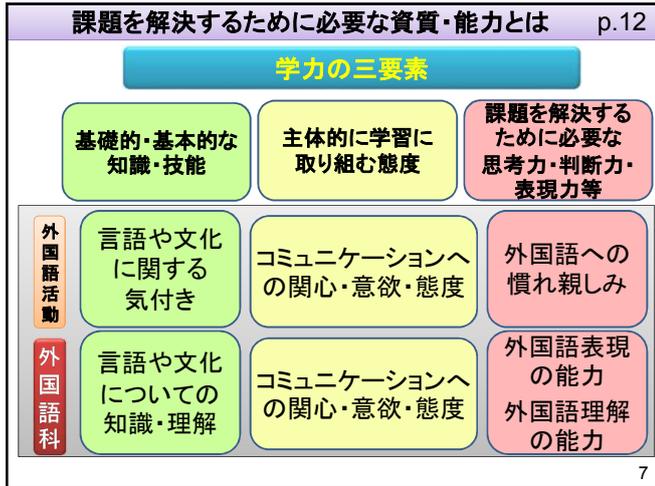
外国語活動

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
----	---------------------	------------	--------------

外国語科

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
----	---------------------	----------	----------	-----------------

6



授業において解決に取り組ませるべき課題とは p.13

課題設定の視点(例)

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	児童生徒の興味・関心
外国語活動 外国語への慣れ親しみ 外国語科 外国語表現の能力 外国語理解の能力	ペアやグループによる 交流 自分の考えの 深化・修正
外国語活動 言語や文化に関する気付き 外国語科 言語や文化についての知識・ 理解	言葉や文化における 類似点や相違点 基礎的・基本的な知識・ 技能の活用, 習得

13

課題設定の視点(例: 中学校 NYのテスさんに日本文化を
紹介するプレゼンテーションを作成しよう!)

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	テスさんが知りたいことは何だろう? 教えてあげたい!
外国語活動 外国語への慣れ親しみ 外国語科 外国語表現の能力 外国語理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食べ物, 音楽, 遊びなど, グループ毎に話し合ってみよう! こんなふうに表現すると伝わりや すいな.なるほど...
外国語活動 言語や文化に関する気付き 外国語科 言語や文化についての知識・ 理解	<ul style="list-style-type: none"> I'm going to tell you about ~. This is ~. I want you to ~.

14

授業において解決に取り組ませるべき課題とは p.13

課題設定の手順(例)

単元の評価規準 → 単元のねらい把握
表現 使用場面や働き
コミュニケーション場面

↓

目指す児童生徒の姿

↓

判断の要素 ← 表現に含まれるべき要素は何か?

↓

児童生徒に表現させたい
発話・英文(「判断基準」)

↓

適切な課題設定

15

授業において解決に取り組ませるべき課題とは p.14

課題の設定例

外国語活動

実生活に関わる場面 相手意識
慣れ親しんだ表現

インタビュー ロールプレイ スキット

コミュニケーションを図らせるような課題

(道案内)
表現や場面を
教師が示す

(道案内)
表現や場面を
児童に考えさせる

16

授業において解決に取り組ませるべき課題とは p.14

課題の設定例

外国語科

情報や考えを的確に理解した上で自分の考えなどを
聞き手や読み手を意識して適切に表現させる課題

教科書を読んで理解したことを基に,
グループで協力してスピーチ原稿を作成させる課題

メッセージの送り主が知りたい情報を基に,
グループでビデオレターを作成させる課題

4技能を統合的に活用させる課題

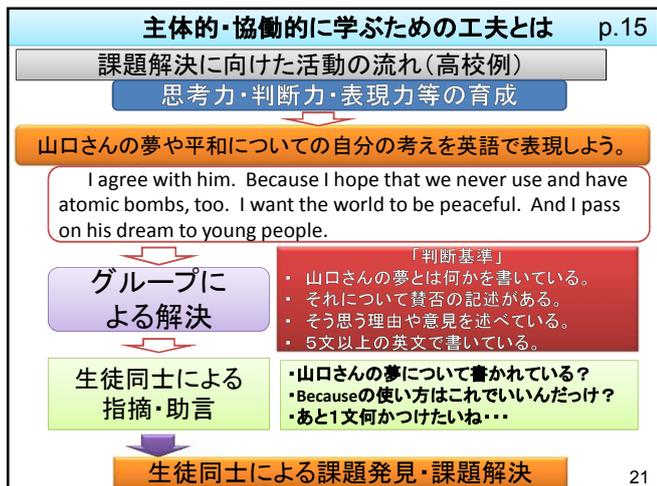
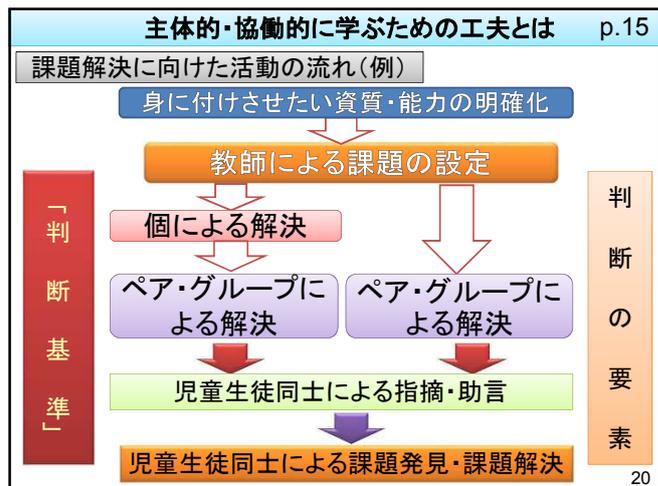
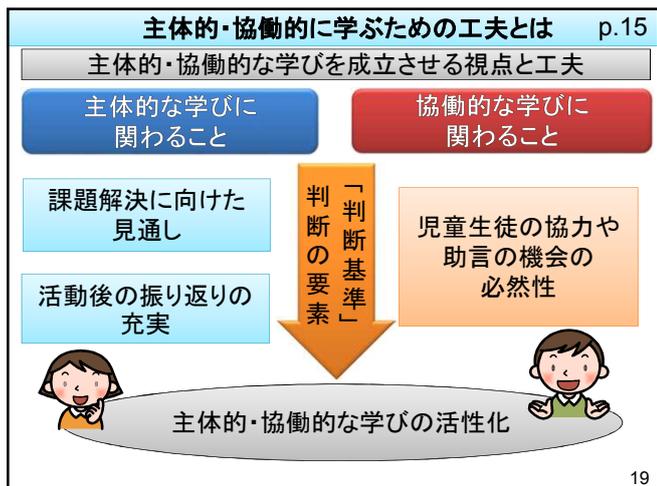
17

主体的・協働的に学ぶための工夫とは p.15

主体的・協働的な学びを成立させる視点と工夫

主体的な学びに 関わること	協働的な学びに 関わること
実生活 切実感	多岐にわたる情報 一人では解決困難
思考・判断・表現 に至る過程の提示	ペア・グループ お互いの指摘・助言
課題解決に必要な 言語材料	他者との交流 よりよい解決策の模索
言語材料の習得・活用	話し合いや修正の視点 の共有
自己評価・振り返り	

18



事例発表(1)

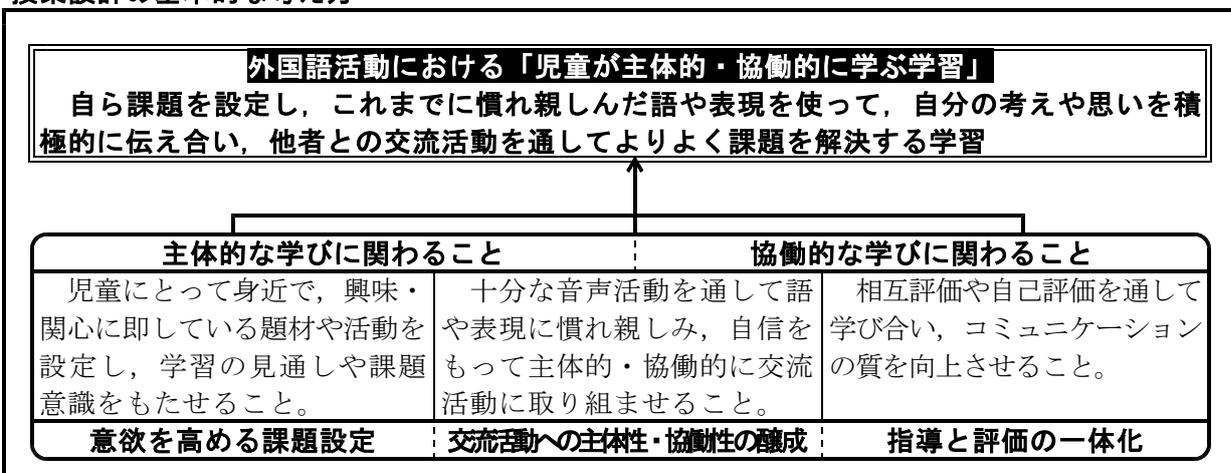
**課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－第6学年「道案内のスキットづくり」の実践を通して－**

始良市立帖佐小学校
教諭 徳田 秀隆

1 はじめに

本校は、平成27・28年度国立教育政策研究所教育課程「外国語活動」研究指定校として、「相手意識をもち、豊かにコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」を研究主題とし、協働体制で研究に取り組んでいる。そして、児童にとって外国語が楽しいもの (Enjoy Gaikokugo) であり、教師が抵抗感なく授業を行うことができる (Easy Gaikokugo) ような外国語活動にするために、本研究を「EGプロジェクト」とし、「学習内容のつながり」、「指導方法のつながり」、「教師・地域人材のつながり」について研究をしている。

2 授業設計の基本的な考え方



(1) 意欲を高める課題設定

児童に学習の見通しをもたせ、解決したいという意欲を高めるために、導入の過程で、単元で扱う語や表現を使ったモデルスキットやデモンストレーションを提示する。ここでは、コミュニケーションの場面や働きに留意し、児童に身に付けさせたい相手意識や表現方法を意図的に盛り込むことで、目指す児童の姿を児童と共有したい。また、児童の興味・関心に即した身近な場面を設定し、既習単元で慣れ親しんだ語や表現、非言語的手段を交えたり、ICTや実物を活用して臨場感を出したりすることで、児童にとって理解可能なモデルスキットになると考える。さらに、児童が目的をもって積極的にスキットを視聴し、自ら課題を設定することができるようにするために、提示する前に「どんな場面で、どんなことを話しているのか考えながら聞きなさい。」と指示することが大切である。課題意識を高める導入の例は【表1】のとおりである。

【表1 課題意識を高める導入の例】

興味・関心のある題材を扱う例	他教科での学びを生かす例	比較して思考させる例
ア 題材 数 (5年) イ ターゲットセンテンス How many ~? ウ 提示したモデルスキット 校内読書旬間に合わせ、これまでに図書室で借りている本の冊数を聞いたり答えたりする場面を設定したスキットを提示する。 エ 児童が設定した課題 友達にいろいろな数を聞いたり伝えたりしよう。	ア 題材 野菜・果物 (5年) イ ターゲットセンテンス Do you like ~? ウ 提示したモデルスキット 家庭科の朝食作りの学習を生かし、サラダにどんな野菜を入れるかをグループで話し合う場面を設定したスキットを提示する。 エ 児童が設定した課題 友達の野菜の好き嫌いを聞いたり伝えたりしよう。	ア 題材 道案内 (6年) イ ターゲットセンテンス Where is the ~? ウ 提示したモデルスキット 相手に伝わるようにジェスチャーを交えたり確認をしたりしながら案内するスキットと一方的な案内のスキットを提示する。 エ 児童が設定した課題 友達に分かりやすく道案内をしよう。

(2) 交流活動への主体性・協働性の醸成

自ら課題を設定した児童が、これまでに慣れ親しんだ語や表現を使って自分の考えや思いを積極的に伝え合うためには、様々な活動を通して十分に慣れ親しみ、自信をもって聞いたり話したりできるようになっていることが大切である。そのことが、主体的な学びにつながると考える。

ア 活動の意図的・計画的な配列

【表2 活動の分類と活動例】

外国語活動で行う活動は、【表2】のように分類することができる。これらを【図1】のように「聞く活動」から「話す活動」へと意図的・計画的に展開し、児童が課題解決に必要な語や表現を自然に繰り返し使う機会を確保することが大切である。また、グループやペア、個人など、それぞれの活動に合った形態の工夫も必要である。	① 聞く活動	カルタゲーム・ビンゴゲーム・おはじきゲーム など
	② 繰り返し言い、音に慣れる活動	キーワードゲーム・ステレオゲーム・歌・チャンツ など
	③ 記憶したり、自分のものにしたる活動	コンセントレーションゲーム・ミッシングゲーム など
	④ 自分の意志で言葉を選んで発話する活動	ショーアンドテル・ロールプレイ・スキット など

第1時	第2時	第3時	第4時
1 単位時間	1 単位時間	1 単位時間	1 単位時間
① ②	① ② ③	① ② ③	① ② ③ ④

【図1 単元の指導計画における活動の配列】

イ 記憶の保持の強化

十分な音声活動を通して、課題解決に必要な語や表現に慣れ親しませていくが、記憶の保持を更に強化することにより、児童たちは自信をもって積極的に課題を解決しようとするのではないかと考える。そこで、発音や語順等についての児童の気づきを意図的に引き出し、気づきを学びに変えさせたい。

(ア) チャンツの工夫

チャンツでは、音のストレスやイントネーション、リズムに合わせて手を叩かせたり、抑揚を手で表現させたりすることで、聴覚による注意を向けさせる。また、教師は音節に合わせてタンブリンを叩いたり、音に合わせて強く叩いたり弱く叩いたりすることが必要である。そして、「教師→児童」、「教師→男子→女子」、「1 班→2 班→3 班」などと形態を替えながら、教師主導によるチャンツから児童主導のチャンツに移行させていくことで、児童が繰り返し英語を使う機会を確保することができる。さらに、「教師→男子→女子」の場合、3 番目に発音する女子は、2 回リズムをとりながら待つことになり、自然に英語のリズムを身に付けることもできる。

(イ) 絵カード等の提示の工夫

チャンツでは、扱う語の絵カードを黒板に掲示するが、その絵カードの並べ方を工夫することも大切である。例えば、建物の語を掲示する場合、語尾に“store”が付く語や“station”が付く語ごとにまとめておくなど、規則性に気付かせる工夫をすると、記憶の保持につながるとともに、言語に関する気づきを高め、基礎的・基本的な知識・技能の習得にもつながるのである（【写真1】）。



【写真1 まとまりごとの提示】

また、基本表現を提示する際には、文字と絵カードを組み合わせ、絵カードを替えながらチャンツを行うことも有効である。例えば、“Where is the ○○?” という基本文型に慣れ親しませる際に、絵カードを次々に替えながらチャンツを行うことで、児童は「もしかして、最後に建物の英語がくるのかな。」という思いをもつようになる。そして、最終的には「もしかして」から「やっぱり」という確信をもち、語順への気づきを引き出すことができるようになる（【写真2】）。このように、気づきが学びに変わる過程を経ることによって、記憶の保持の強化につながると考える。ただし、一つ一つの単語をどう読むかを指導しているのではなく、あくまでも、音声のまとまりとして慣れ親しませることが大切である。



【写真2 文字と絵カードの提示】

ウ 協働的な交流活動の場の設定

活動の意図的・計画的な配列と記憶の保持を強化することによって、児童の「聞くこと」、「話すこと」への自信を高めた上で、互いに協力したり、助言したりする必然性のある活動を設定することが主体的・協働的な学習につながると考える。そのような活動として、例えば、自分の意志で言葉を選んで発話する活動であるスキットづくりがある。児童がこれまでに慣れ親しんだ語や表現を使って、自分たちで場面や状況を設定し、それに合ったセリフや動きを考え、演じていくものである。この活動に、学習形態や展開を工夫しながら取り組ませることで、「多様な情報を集めることができる」、「多様な視点から考えることができる」、「考えをよりよく練り上げることができる」などの、協働的な学習のよさを生かすことができると考える。スキットづくりの進め方は【表3】のとおりである。

【表3 スキットづくりの進め方の例】

段階	学習形態	特徴
① 基本スキットに慣れ親しむ段階	全体	チャンツ等で十分に慣れ親しみ、スキットづくりで活用する情報を得ることができる。
② 場面を設定し、基本スキットの一部を替えたり、前後に場面を付け加えたりする段階	グループ	グループでそれぞれ場面や内容を設定するために、一人一人が自分の考えや思いを積極的に伝え合い、主体的・協働的に取り組むことができる。
③ 新たに場面を設定し、オリジナルのスキットを作る段階	グループ	②とは異なるグループを新たに編成することにより、②・③でそれぞれのグループで出た多様な情報が集まり、多様な視点から考えることができる。
④ 相互評価を通して、③を練り上げる段階	全体・グループ	グループ同士や全体で発表し、お互いのよさや改善点を伝え合うことで、情報を整理・分析し、スキットをよりよく練り上げ、表現することができる。

エ 主体性を引き出す工夫

児童の主体的な学習活動にするためには、教師の発話量を精選して児童の活動時間を確保したり、児童が自ら考え、見通しをもって学習に取り組めるようにする必要がある。そのためには、活動の流れや時間配分、それぞれの活動のポイント、そして、活動を通して達成すべき課題を、【図2】のように提示することが必要である。

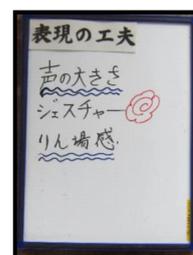
活動の流れ
今～10:05 スキット作り① グループで協力して
10:05～10:15 発表・アドバイス いいところと改善点を伝え合っ
10:15～10:20 スキット作り② グループ同士・みんなで協力して 場面や表現を工夫したスキットを みんなで作り上げよう。

【図2 活動の可視化】

(3) 指導と評価の一体化

ア 中間評価の実施

「気付き」を大切に外国語活動では、友達のよい所を見付け、自分のコミュニケーションに生かすことが重要であると考え。そこで、コミュニケーション活動の途中で中間評価を行い、手本となるようなコミュニケーションを図っている児童を例に取り上げ、よりよいコミュニケーションの図り方について気付かせ、それを生かして再度コミュニケーション活動に取り組ませる。また、中間評価の際には、よりよいコミュニケーションの図り方について出された意見を【写真3】のようにホワイトボード等にまとめ、【写真4】のように情報の可視化をした板書を通して、常に児童に意識させる。



【写真3】

イ チャレンジカードの活用

児童に目標をもたせ、意欲の持続化及び記憶の保持化を図るために、毎時間使う自己評価カードの裏面に、「Can-do形式」でチャレンジカードを作成した。

活用方法として、児童は休み時間等に友達同士で確かめ合ったり、教師のところにチャレンジしに行き、チェック印をもらったりしている。また、教師は、児童がどこでつまづいている

かを知り、指導に役立てるようにしている。ただし、現行の学習指導要領の趣旨を踏まえ、これを基に評価をするということはない。



【写真4 情報の可視化を図る板書】

3 検証授業

(1) 単元 道案内をしよう (「Hi, friends! 2」 Lesson 4 “Turn right.”)

(2) 単元について

この期の児童は、これまでに「カレンダーを作ろう」(Hi, friends!2)で、友達の誕生日を尋ねる活動を通して、相手と積極的にコミュニケーションを図りながら、自分の思いを表現し、伝え合う楽しさやよさを味わってきている。また、これまでに慣れ親しんだ英語を生かしながら、授業や日常生活において、教師や友達と積極的にコミュニケーションを図ったり、身近なものを英語で言おうとしたりする姿も見られる。さらに、児童のコミュニケーションへの積極性や英語を使おうとする意欲も高まり、もっと英語を使ってコミュニケーションを図りたいという願いをもつようになってきている。これまでの学習経験を生かし、相手意識をもってよりよくコミュニケーションを図る児童を育成していきたい。

そこで、本単元では、相手意識をもって互いにコミュニケーションを図ることが期待される場面である「道案内」をする場面を設定し、次の3点のねらいを設定した。第一に、「行きたい場所を尋ねたり答えたりしたい」という願いをもたせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとするコミュニケーションへの関心・意欲・態度を育むこと。第二に、遊び感覚豊かな活動を通して、建物の英語や道案内の表現に十分に慣れ親しませること。第三に、建物の英語と外来語の発音やアクセントなどの違いに気付かせ、言語や文化に対する気付きをもたせること。これらのねらいのもと、児童に、相手意識をもたせ、よりよくコミュニケーションを図っていこうとする意欲を高めさせたい。また、これまでに慣れ親しんできた英語や外来語等で伝えたり、ジェスチャーや表情などの非言語的手段を駆使したりしながら、コミュニケーションを図る楽しさを味わわせたい。

(3) 児童の実態 (平成27年6月8日実施 対象：6年生35名)

① 外国語活動への興味・関心

ア 外国語活動の授業は楽しいですか。

はい (34) いいえ (1)

- ・ いろいろなことを知ることができる。(15)
- ・ ゲームやチャンツがあるから楽しい。(11)
- ・ コミュニケーションがとれる。(3)
- ・ 友達の新しいところを発見できる。(2)

イ 不安なことがありますか。

ない (26) ある (9)

- ・ 単語を全部覚えられない。(4)
- ・ 発音や読み方が分からない。(2)
- ・ 上手く英語が話せているか不安である。(2)

② 建物や方向の英語に対する慣れ親しみ

ア それぞれの建物やお店は英語で何というか知っていますか？

学校→school	23	警察署→police station	11
レストラン→restaurant	18	消防署→fire station	9
本屋→bookstore	18	病院→hospital	9
スーパー→supermarket	17	駅→station	7
花屋→flower shop	16	郵便局→post office	4
コンビニ→convenience store	15	デパート→department store	4
公園→park	12		

③ コミュニケーションを継続させる方法

自分が伝えたい英語が分からないときにどう伝えますか。

- ・ ジェスチャーで伝える。(25)
- ・ 先生や友達に聞く。(3)
- ・ 絵を描く。(2)
- ・ 友達と協力する。(2)

④ コミュニケーションへの積極性

どんなことに気を付けてコミュニケーションを図りますか。

- ・ 分かりやすく話す。(7)
- ・ 相手の気持ちを考える。(4)
- ・ 相手の目を見る。(3)
- ・ 表情に気を付ける。(2)
- ・ ゆっくり大きな声で話す。(2)
- ・ ジェスチャーを交える。(2)
- ・ 相づちを打つ。(1)
- ・ よく聞く。(1)

⑤ 言語への興味・関心

これからどんなことをやってみたいですか。

- ・ 英語で会話がしたい。(20)
- ・ 外国語を覚えたい。(8)
- ・ 生活に生かしたい。(2)
- ・ ゲームがしたい。(2)

(考察)

- ① 本学級の児童は、外国語活動の学習を楽しみにしており、ゲームや歌などの活動に意欲的に取り組んでいることが分かる。しかし、英語に慣れ親しむ活動を通して、教師や友達とコミュニケーションをとることに関する楽しさや喜び、達成感・成就感を十分に味わっている児童は少ない。そこで、コミュニケーションのよさや自分の伝えたいことを話すだけでなく、ジェスチャーを交えたり、友達と協力したりしながら、相手に伝えることができたという成功体験を味わわせたい。
- ② 建物や方向の英語で、外来語として聞いたことのあるものに関しては、概ね聞き取ることができた。しかし、「郵便局→post office」や「病院→hospital」などのように、普段身近に聞き慣れないものは、正答率が低かった。そこで、ゲームやリズムチャンツを行う際に、十分慣れ親しませ、児童の定着状況に応じて繰り返し練習したり、意図的にゲームやチャンツに取り入れたりしていきたい。また、具体物や絵カードをできるだけ活用し、視覚や聴覚に訴え掛けるような活動を展開していきたい。
- ③ 英語が分からないときの対応については、多くの児童がジェスチャーを用いて伝えようとしていることが分かる。しかし、道案内をするために、どのようなジェスチャーをすれば効果的に伝えることができるかについては、理解していない。伝えたい英語が分からない場合、すぐにコミュニケーションが途切れてしまうことが予想される。そこで、意図的な活動を通して、具体的な表現方法を身に付けさせる必要がある。そのために、学び合う場、気付く場を設定し、効果的な道案内の仕方について考えさせていきたい。
- ④ コミュニケーションへの積極性については、「分かりやすく話す」、「相手の気持ちを考える」などの相手意識をもってコミュニケーションを図ることの重要性に気付いている児童が多かった。しかし、英語を使って、具体的にどのような話し方や行動が相手を意識したものなのか理解している児童は少なく、ゲームやチャンツを行う際、楽しさだけを追究してしまい、相手意識を忘れてしまうこともある。そこで、ゲームやチャンツの際には、相手を意識して話したりジェスチャーを交えたりして活動させるようにしていきたい。
- ⑤ 言語への興味・関心については、多くの児童が、もっと上手に話せるようになりたいという願いをもっていることが分かる。単元を通して、児童ができるようになったことや相手意識の向上を認め、賞賛しながら達成感・成就感を味わわせていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 言語や文化への体験的理解“Interesting”からのアプローチ

児童が街で目にする建物やお店などの身近な言語材料を取り上げ、リズムチャンツなどを通して、英語が外来語として身の回りにあることに気付かせる。また、英語と日本語の表現の違いや知っている英語に着目させ、児童たちの関心を高めていく。

イ 一人一人の、音声や表現への慣れ親しみ“Individual”からのアプローチ

歌・チャンツ・ゲーム等の遊び感覚豊かな活動を通して、建物やお店の英語や道案内の表現に十分に慣れ親しませ、一人一人の聞いたり話したりすることへの自信をもたせたい。そこで、チャンツやキーワードゲーム等の「聞くこと」に重点を置いた活動では、教師の話す英語を十分に聞かせ、英語を話そうとする意欲を高めたい。また、道案内ゲームやインタビューゲーム等の「話すこと」に重点を置いた活動では、これまでに十分に慣れ親しんだ英語を繰り返し話すことにより、自信をもってスキットづくりにつなげることができるようさせる。

ウ コミュニケーション活動“Interaction”からのアプローチ

インタビューゲームや道案内ゲームでは、児童のコミュニケーションを図る必要感をもたせ、相手意識をもって「道案内」ができるようにするために、次の2点に留意して指導する。第一に、インフォメーションギャップを与え、お互いのギャップを埋めるために、これまでの学習してきた表現や、ジェスチャーなどの非言語的手段を駆使して、自分なりの表現方法で相手に伝えるようにさせ、コミュニケーションを活性化させる。第二に、それらの活動を、簡単な道案内スキットづくりへとつなげ、これまでに慣れ親しんだ様々な表現方法を用いて、友達と協力して活動できるようにさせる。

(5) 目標

- ア 「行きたい場所を尋ねたり答えたりしたい」という願いのもと、積極的に道を尋ねたり、道案内したりしようとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- イ チャンツやコミュニケーション活動を通して、目的地への行き方を尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しむ。【外国語への慣れ親しみ】
- ウ 英語と日本語とでは、建物の表し方が違うことに気付く。【言語や文化に関する気付き】

(6) 評価規準及び「判断の要素」

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
子供の姿	<ul style="list-style-type: none"> 道案内の場面のやりとりで、相手意識をもち、自分なりの表現方法で積極的に道を尋ねたり、道案内をしたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 道案内の場面のやりとりで、これまでに慣れ親しんできた語や表現を、状況に応じて自分の意思で選んで発話している。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の英語が語源になっている日本語（外来語）が身の回りにはたくさんあることや、外来語と英語の発音の違いに気付いている。
判断の要素	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに表現方法を工夫して表現しようとしている主体性 友達と協力して交流活動に参加している協働性 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに慣れ親しんできた語や表現の使用 “Where is the ~?”などの道案内に関する語や表現の使用 	<ul style="list-style-type: none"> 外来語と英語の発音の相違点への気付き 英語が語源になっている外来語が身の回りにあることへの気付き

(7) 指導計画（全5時間）

過程	時間	主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
わくわく	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">建物の英語を知ろう。</div> 1 歌・チャンツ 2 キーワードゲーム 3 おはじきゲーム 4 ジェスチャーゲーム	<ul style="list-style-type: none"> 「道案内」をする場面のスキットを提示し、本単元への見通しをもたせながら、学習課題をつかませる。 おはじきゲームを通して、建物の英語に十分に慣れ親しませる。 ジェスチャーゲームでは、非言語的手段で伝えることができることに気付かせる。
どきどき	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">道案内の英語を知ろう。</div> 1 歌・チャンツ 2 暗号ゲーム 3 サイモンセズゲーム 4 マッピングゲーム	<ul style="list-style-type: none"> サイモンセズゲームで、「相手の行動を促す」表現の“Go straight.”等に、体を動かしながら楽しく慣れ親しませる。 暗号ゲームやマッピングゲームでは、道案内の表現に十分に慣れ親しませ、道案内をしたいという意欲の持続化を図る。
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達に分かりやすく道案内をしよう。</div> 1 歌・チャンツ 2 Let's Chant (「Hi, friends!2」p. 16) 3 宝探しゲーム 4 道案内ゲーム 5 インタビューゲーム	<ul style="list-style-type: none"> 道案内ゲームでは、タスクを設定し、コミュニケーションの活性化を図る。「道案内」をする際に、これまでの学習で学んだ相手意識をもたせて取り組ませる。 インタビューゲームでは、インフォメーションギャップを利用したシートを使い、コミュニケーションを図る必要感をもたせる。また、よりよくコミュニケーションを図る視点を意識させるために中間評価を行う。
いきいき	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">道案内スキットをつくろう。</div> 1 歌・チャンツ 2 Let's Chant (「Hi, friends!2」p. 16) 3 スキットづくり 4 スキット発表	<ul style="list-style-type: none"> グループで簡単な道案内の場面を設定し、これまでの学習を生かしてスキットづくりに挑戦させる。 スキットをグループ同士で視聴し、助言し合うことで、主体的・協働的に学習を進められるようにする。そして、他グループの助言を基に再度スキットをつくらせる。
きらきら	5 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">場面や表現を工夫してスキットをつくらう</div> 1 歌・チャンツ 2 Let's Chant (「Hi, friends!2」p. 16) 3 スキットづくり 4 スキット発表	<ul style="list-style-type: none"> 道案内の場面を設定し、スキットづくりカード等を活用させて発展スキットづくりに挑戦させる。 相手に伝えるための方法として、言葉で伝えるだけでなく、「より分かりやすく」という視点を与え、ジェスチャー等を交えた表現ができるようにする。

(8) 本時 (5/5)

ア 目標

これまで慣れ親しんできた英語などを用いて、友達と協力しながら道案内のスキットを積極的に作ったり発表したりしようとする。

イ 主体的・協働的に学ぶ学習の工夫について

本時では、これまでに慣れ親しんだ建物の英語や道案内の表現を用いて、道案内スキットづくりに取り組ませる。具体的には、まず、チャンツで、本時で扱う建物の英語や道案内の表現を、リズムに合わせて繰り返し聞いたり話したりさせ、一人一人に自信をもたせる。次に、グループで場面や状況、役割分担等を考えてスキットをつくらせ、相互に発表させる。そして、互いに賞賛したり助言し合ったりする中間評価を取り入れたり、自分たちで改善点を話し合ったりすることにより、主体的・協働的に学び合い高め合う場を設定する。その後、再度スキットをつくることによって、学んだことを生かす喜びを感じたり、達成感を味わったりすることができる。最後に、模範的なスキットを作っていたグループに全体の前で発表させ、互いの成長に気付かせたい。

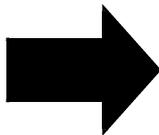
ウ 実際

過程	活動内容	教師の働き掛け
わくわく (6)	1 あいさつ 2 モデルスキット  <p>A: Oh, it's 10! Time sale! Time sale! Today, potato is 20 yen. Excuse me. Where is the vegetable section? B: Go straight and turn right. It's on your right. A: Thank you. B: You're welcome.</p> 3 めあて (Today's aim) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 場面や表現を工夫してスキットをつくらう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく安心して学習できる雰囲気高める。 ○ 本時で学習する内容の見通しをもたせるために「スーパーマーケットの野菜売り場の場所を聞く場面」のモデルスキットを提示する。 ○ 発達の段階に即した表現手段を身に付けさせ、「相手の行動を促す」というコミュニケーションの働きを意識させるためにジェスチャーや繰り返しを交えたモデルスキットを提示する。 ○ 前時でつくったスキットを想起し、更によりスキットにするにはどうすればよいかを考えさせ、切実な問題意識をもたせ、学習への見通しをもたせる。
どきどき (5)	4 チャンツ 建物やお店の言い方や、場所を尋ねたり案内したりする表現を、リズムに合わせて繰り返し聞いたり話したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物の英語や道案内の表現に慣れ親しませるために、タンブリンでリズムを取りながら、リズムに合わせて繰り返し聞いたり話したりさせる。
いきいき (28)	5 スキットづくり 1 グループで場面設定や役割分担をして道案内スキットを作る。 ex) 本を買いたくて書店に行く場面 のどが渴いてコンビニに行く場面 6 アドバイスタイム グループで作ったスキットを相互に視聴し、良かった点やよりよくするにはどうしたらよいかをアドバイスし合う。 7 スキットづくり 2 アドバイスを基に、グループでさらに表現などを工夫してスキットを発展させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで「困っていること」、「なぜ困っているのか」、「どうすれば解決できるか」などを話し合いながら場面や目的地を設定することで、創造性のあるスキットのイメージをもたせる。また、「はじめ」、「なか」、「おわり」の構成で考えさせる。 ○ 表現したい英語が分からない場合は非言語的手段を用いることや、非言語的手段を用いることで、より分かりやすく伝えることができることに気付かせる。 ○ 中間評価を行い、相互に評価し合うことによって互いのスキットの良さに気づき、より良い表現方法や相手意識等を自分達のスキットに取り入れようとする態度を育てる。
きらきら (6)	8 感想 (EGカード)  <p>みんな、いろいろな工夫をしてスキットを作っていたな。</p> 9 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ EGカードに感想を記入して、数名発表させ、お互いの成長に気付かせる。 ○ 次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかった点を評価する。 ○ 次時の学習について知らせる。

4 検証授業における児童の姿

(1) 児童がつくったスキットの例

【基本スキット】
 A:Excuse me.
 B:Yes.
 A:Where is the ~?
 B:Turn right/left./Go straight.
 It's on your right/left.
 A:Thank you.
 B:You're welcome.



【あるグループが発表したスキット】
 (友達の誕生日だと気付く場面)
 A:Today ○○'s birthday.
 B:Oh, flower.
 A:Present sunflower.
 B:O.K. Umm, flower shop…
 (花屋への道を尋ねる場面)
 A・B:Excuse me.
 C:Yes.
 A・B:Where is the flower shop?
 C・D:Flower shop? Go straight…
 A・B:Go straight…
 C・D:It's on your right.
 A・B:It's on my right. O.K. Thank you. Bye.
 C・D:Bye..
 A・B:Bye.
 C:Bye.
 (花屋で誕生日プレゼントを買う場面)
 A・B:Birthday present is sunflower.
 E:O.K. Here you are.
 A・B:Thank you. Bye.
 E:Bye.
 (プレゼントを届ける場面)
 A:○○, birthday present, sunflower.
 B:Happy birthday.
 F:Thank you!

(2) 児童の感想

【自由記述の観点】
 ① 場面をどのように工夫しましたか。
 ② 相手により良く伝わるようにどのように工夫しましたか。
 ③ 友達と協力してスキットづくりに取り組んでみて、どんなことを考えましたか。
 ④ 自分ががんばったことや友達のよかったところを書きましょう。

【児童の自由記述】
 ① 駅から本屋に行くという二つの場面がしっかりつながるようにした。
 ② 相手に背中を向けず、声の大きさやジェスチャーに気を付けたり、臨場感を出したりした。また、相手が知っている言葉を使った。
 ③ 自分達で意見を出し合い、友達と協力して何かを作るのは、たくさんアイデアが出て、一人の時よりも楽しかった。
 ④ これまでに習った英語を使ったり、誰でも知っている英語を使った。

5 おわりに

本研究を通じた成果と課題については、次のとおりである。

(1) 成果

ア 学習指導要領の目標や内容を十分に理解して授業を行うことにより、児童が自らの知識・技能を活用して新たなものを創造していく能力を育成できると感じた。また、児童が思考・判断し、表現する場面を意図的・計画的に設定し、授業のプロセスを充実させることにより、学習指導要領改訂のキーワードである主体的・協働的な学習につながるということが分かった。さらに、取り組ませるべき課題を設定し、それに迫るためのモデルスキットの工夫を行うことにより、児童の課題意識を高め、意欲的に活動に取り組ませることができた。

イ 「聞く活動」から「話す活動」へとつなげていくことにより、児童の発話への不安感を軽減し、自信をもってコミュニケーション活動に取り組ませることができた。また、教師主体の活動から児童主体の活動への移行させることにより、児童の発話量が増え、コミュニケーション活動に対する自信が深まると感じた。

ウ 主体的・協働的な学びの場としてのスキットづくりの活動で、学習形態を工夫したり、段階的にスキットを発展させたりすることで、自分の考えや思いを積極的に伝えたり、友達のよさに気付いて自分の表現に生かしたりするなど、意図的に学び合ったり高め合ったりしようとする態度を育成することができた。児童の知的好奇心をかき立てる活動として、スキットづくりは非常に有効であった。

(2) 課題

ア 課題意識を高める導入の工夫としてモデルスキットを提示しているが、モデルスキット以外でも、児童が「やってみよう」、「どうしてだろう。」などと必要感や違和感を感じられるような課題場面を設定していきたい。

イ 現行の学習指導要領では定着は求められていないが、自信をもってコミュニケーション活動に取り組むことができるようにするためには、意図的な活動の配列や工夫が必要である。単にたくさんのインプットを与えるだけでなく、しっかりとねらいをもって活動を展開していきたい。また、今後の教科化に向けて、インテイクを図る指導方法について研究する必要がある。

ウ スキットづくりにおける場面や表現方法を話し合う場面では、グループごとにホワイトボードを配布し、付箋紙等を活用して一人一人の考えを吸い上げたりまとめたりするなど、様々な思考ツールを用いて、協働的な学びの場を工夫する必要がある。

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究
－第3学年「ビデオレターの作成」の実践を通して－

指宿市立西指宿中学校
教諭 新田 千夏

1 はじめに

本校は、指宿市の北西部に位置し、天璋院篤姫で知られる今和泉地区と、池田湖と開聞岳を望む池田地区からなる、自然にあふれた学校である。校区は今和泉海岸や今和泉漁港一帯及びその内陸部から、観光地として知られる九州最大の湖である池田湖にかけての農村地帯を有する、農業及び漁業を中心とした地域であり、緑に囲まれた教育にきわめて良好な環境である。各学年1学級、全校生徒75人の小規模校である。様々な場面で、生徒同士が学年の枠を越えてお互いの長所を認め合い、高め合うとともに、苦手なことに取り組む仲間を支援合うような人間関係が形成されている。また、意欲的に学習や学校行事に取り組む生徒が多く、全員に居場所のある安心安全な学校である。

本校英語科は、第1、2学年においてTT(ティームティーチング)、第3学年では少人数指導を行うなど、教師2人によるきめ細かな指導を行うための体制が整っている。そして、本校の教育目標「豊かな心で生きる力を身に付け、確かな学力と心身ともに健康で活力ある生徒の育成」に向けた生徒一人一人の個性を伸ばす指導を行っている。

昨年度の鹿児島学習定着度調査では、県や市の平均通過率を上回り、特に「思考・判断」の通過率は高かった。本年度の標準学力調査(NRT)においても、「話すこと」、「書くこと」の通過率が昨年度に比べて向上してきており、これまでの取組が少しずつ結果として表れてきたことが分かる。

2 授業設計の考え方

(1) 外国語科の授業において解決に取り組ませるべき課題

ア 課題を解決するために必要な資質・能力

外国語科においては、課題を解決するために必要な資質・能力をコミュニケーション能力、すなわち、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」、「言語や文化に関する知識・理解」と捉えている。

実践に当たっては、これまでの本校での指導を生かしながら、言語の使用場面や言語の働きを更に広げた言語活動を取り入れることで、必要な資質・能力の育成を図ることができると考えた。そこで、教科書本文の内容理解に基づいて事実関係を伝えたり、物事について判断したりした内容を用いて、教師と生徒、あるいは生徒間でのコミュニケーション活動を積極的に取り入れ、英文に慣れさせてからまとまりのある英文作成に取り組ませることとした。

イ 課題設定の手順

今回の実践では、課題を解決するために必要な資質・能力を育成するために、教科書を読んで理解した内容を基に自分の体験に基づいて述べる活動や、読んだり聞いたりした内容を基に自分の経験から得たことなどについて述べる活動といった4技能の統合的な活用を図る活動を行うこととした。単元の指導計画を作成するに当たっては、生徒に到達させたい表現の目安を「判断基準」として設定し、それを基に解決に取り組ませるべき課題を設定した。

課題設定の手順は次のとおりである。

1	<p>単元のねらいの把握 LESSON 5 “Houses and Lives”(NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの生徒と協力して、自分の考えを話したり書いたりして、課題を解決しようとしている。 ・ 日本文化を紹介する英文を書いたり、書いた内容を基に話したりすることができる。 ・ 日本や外国の様々な家、自然環境やそこに住む人々の生活文化についての本文内容を理解することができる。 ・ 関係代名詞の意味、用法及び表現形式について理解している。
---	---

2 表現, 言語の使用場面と働きの確認

- ↓
- (表現) 関係代名詞
 - (言語の使用場面) 日本文化の紹介
 - (言語の働き) 情報を伝える

3 育成したい資質・能力に基づいた評価規準の確認

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ア 相づちを打つなど、相手の話に関心を持って聞いている。 イ 学習した表現を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。 ウ 学習した表現を用いて、積極的に紹介文作成に取り組んでいる。	ア 相手に分かりやすく日本文化について話している。 イ 正しい強勢, イントネーション, 区切りなどを用いて音読することができる。 ウ 本文を内容が正しく伝わるよう音読することができる。 エ 日本文化について、これまでに学んだ表現を用い紹介文を書くことができる。	ア 本単元の対話や日本と世界の住文化についての特徴を聞き取ることができる。 イ 本単元の対話や、日本と世界の住文化についての説明文を読んで、理解することができる。	ア 関係代名詞が文構造として理解できる。 イ 本単元で学習した単語を習得している。 ウ 紹介文の文章構成を理解している。 エ 世界の様々な家の特徴や文化を知ったり、日本文化を考えたりする。

4 目指す生徒の姿の想定

↓

日本を訪れる予定のアメリカの知人のために、日本文化を説明するプレゼンテーションを作成し、ビデオレターで分かりやすく紹介している。

5 「判断の要素」の設定

- | | |
|------------------|--------------|
| ア 内容を基にした記述 | イ 自分自身に関する記述 |
| ウ これまでの経験を基にした記述 | エ 既習事項の活用 |
| オ 英文の量 | |

6 「判断基準」の設定

- | |
|--------------------------------|
| ア 外国人に日本文化を知ってもらうための説明をしている。 |
| イ 自分自身のことについて述べている。 |
| ウ 自分のこれまでの経験を基に日本文化を紹介している。 |
| エ 自己紹介や日本文化紹介に使われる既習事項を活用している。 |
| オ 10文以上の英文で述べている。 |

7 生徒に表現させたい英文例の想定

↓

Hello, I'm ○○. My hobby is watching movies. It's fun. I like ○○ the best. Thank you for your letter. I'm very happy to hear that you will come to Japan on Christmas. Please enjoy your stay in Japan.

You said that you like noodles and you want to know about New Year's food. So I'm going to talk about Japanese food, toshikoshi-soba. This is buckwheat noodles which is called toshikoshi-soba. We eat it on New Year's Eve with our family. It means the wish for long and healthy life.

Last year I made toshikoshi-soba with my mother. This was my first time, so I enjoyed it very much.

Why don't you try toshikoshi-soba this New Year's Eve?

8 解決に取り組ませるべき課題の設定

「ニューヨークのテスさんに日本文化を紹介するプレゼンテーションの原稿を作成しよう。」

単元の指導に先立って「判断基準」を設定することで、単元を通して見通しをもった取組を計画することができる。評価の際も具体的な項目について評価できるため、評価後の指導を計画的に行うことができる。また、教師と生徒が「判断基準」を共有しておくことで、生徒にとっても、求められている量と、具体的に何を書くことができればゴールに到達できるかがはっきりと見えるため、主体的に活動に取り組むことができる。さらに、グループ活動での話し合いの活性化や適切な相互評価につなげることもできる。

授業では、初めて来日する予定の外国人から、「日本文化について知りたい」との依頼の手紙を読み取らせたり、ビデオレターを視聴する活動を加えたりすることにより、他者の意見や要望を踏まえて自分の意見や他者への紹介を述べる言語活動を行うこととした。「判断基準」の設定に当たっては、生徒がこれまでに学習した自分自身の経験や感想の述べ方や、英文のつながりを意識した表現方法を参考にした。自分の経験から得たことを基に日本文化を紹介することで、説得力が高まり、表現力の更なる高まりを期待できると考えた。

ウ 表現活動における指導の工夫

4技能の統合的な活用を図る指導を行う際に最も大きな問題となるのは、生徒が必要な語彙や文構造を自分のものとして使用できるかどうかである。基本的な語彙や文構造の知識はあるものの、実際にその語彙・文構造を活用してまとまりのある英文を書くことのできる生徒は少ない。そこで、1時間でまとまりのある英文を書く指導を行うよりも、毎時間少しずつ継続して活用させ、前時までの内容を繰り返しながら積み上げていく指導を行うことが効果的であると考えた。

本実践は、理解した内容について考えたことを書く活動であるが、これまでの学習では、各時間の内容が単発的になっており、そのことがまとまりのある英文を書く力につながらない原因であると考えた。そこで授業開始の挨拶の時間からインタラク션을積極的に取り入れたり、授業中に“Why do you think so?”, “What do you think of this idea?”や“How about you?”などの発問を繰り返して生徒の考えを引き出したりする工夫を行った。また単元を通じた活動として、前時までの内容を繰り返し復習できるように、毎時間少しずつ内容が増えていくワークシートを使用することとした。

実際の授業の中では、下の表にあるように各時間に帯活動として設定した Writing Activity において、対話やワークシートによる英問英答を行い、少しずつ表現や語彙を増やしていき、単元の終末で Writing Activity の内容をつなげることによってまとまりのある英文が作成できるような指導計画を立てた。

時	帯活動の中で書かせた英文のトピック	評価を生かした指導
1	トピックを選んだ理由についての記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「判断基準」に照らして相互評価を行わせる。 ・ 「判断基準」に到達しない場合は補充指導を行う。
2	経験や思い出を基にした日本文化の紹介	
3	選んだトピックについての説明①	
4	選んだトピックについての説明②	
5	自己紹介の表現（名前・好きなこととその理由など）	
6	相手に何かをおすすめするときの表現	
7	英文の構成・推敲	
8	プレゼンテーション原稿作成	ワークシートを基に評価する。

(2) 主体的・協働的に学ぶ学習の工夫

生徒が互いに協力し合いながら、課題解決していく姿が見られる授業作りに取り組んだ。よりよい学びができるために、他者の考えやアドバイスを聞き、自分に取り入れることにより、より表現の幅が広がると考えた。一つのテーマについて、3～4人を基本とするグループ（本実践ではカテゴリーグループ）の中で、それぞれの生徒が課題を分担し、英文作成に取り組む。グループ内で十分に検討を重ね、よりよい英文に仕上げる。次に、カテゴリーグループから一人ずつ集まった新しいグループ（本実践ではスペシャルグループ）を作り、カテゴリーグループ内で仕上げた課題の発表を本番形式で行った。そこで得たアドバイスや修正、加筆を加えた原稿をそれぞれがカテゴリーグループに持ち帰り、よりよい原稿に高めていく。

形態を工夫したグループで英文を検討することにより、自分の考えと他者の意見を統合しながら、学習を深めていくことができた。他者との学び合いや助け合いの中から、よりよい表現を作り出すことができたと考える。グループ活動の流れは次のとおりである。

1 ニューヨーク在住の相手 (Tess さん) から生徒に届いたメッセージ

Dear Students of Nishi-ibusuki junior high school,
Hello, I'm Tess in New York. Nice to see you!
At Christmas time, I will get married to Hitomi, your English teacher's sister, and I will visit Japan for about 2 weeks.
This is my first visit to Japan, so please tell me about Japan, and Japanese culture, traditions and lifestyle. [グループ A] I'm really interested in music and I like singing. I want to know about Japanese songs and famous Japanese singers. [グループ B] I also like comics and movies so please tell me about Japanese manga and anime movies. [グループ C] I want to try Japanese foods. So please recommend some to me. [グループ D]
I'm really looking forward to visiting Japan.
I would like to visit your town Ibusuki if Hitomi and I have time.
Please help me. Thank you!

2 設定した課題

「Tess さんに日本文化を紹介するプレゼンテーション原稿を作成し、ビデオレターを送ろう。」

3 生徒の活動の流れ

- ① カテゴリーグループでの課題分担と個人のテーマ設定
[グループ A] Japanese Culture, Lifestyle, Traditions
[グループ B] Japanese Songs, Singers
[グループ C] Japanese Manga, Anime, movies
[グループ D] Japanese Food

- ② 個人での英文作成 (帯活動)



- ⑤ カテゴリーグループでの練り合い, 原稿完成



- ④ スペシャルグループでの発表, 意見交換



- ③ カテゴリーグループでの検討・助言・加筆修正



- ⑥ カテゴリーグループでのビデオレター撮影



[グループ A]



[グループ B]

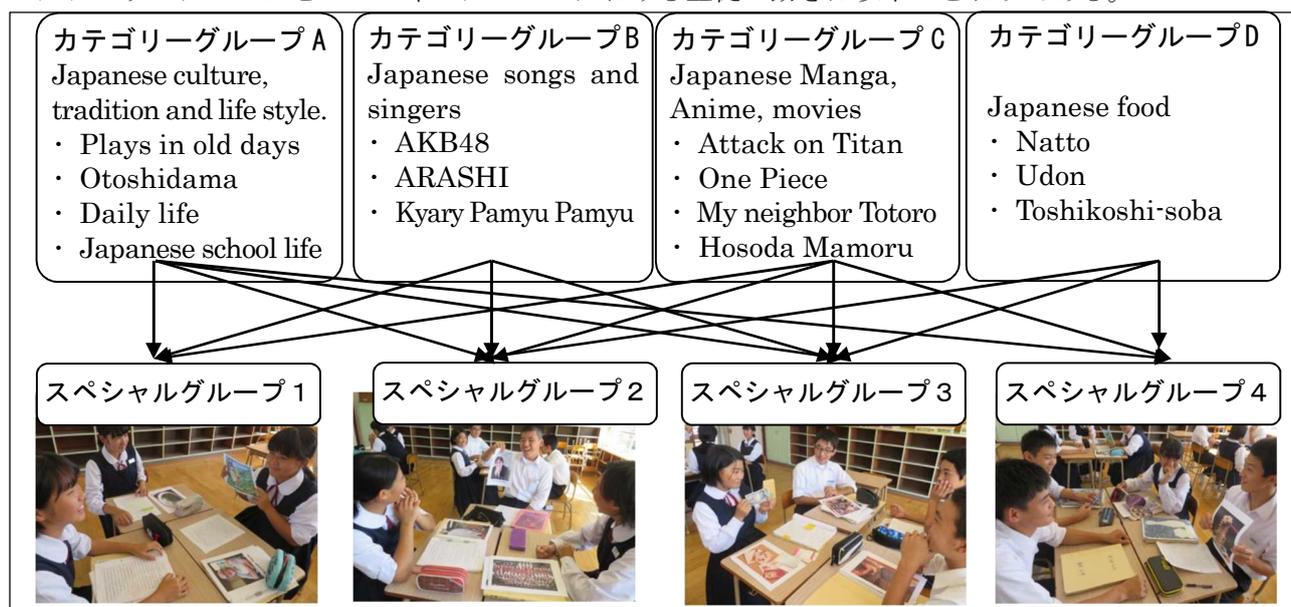


[グループ C]



[グループ D]

カテゴリーグループとスペシャルグループにおける生徒の動きは以下のとおりである。



カテゴリーグループとスペシャルグループの生徒の動き

3 検証授業

(1) 学習指導案

ア 単元

LESSON 5 “Houses and Lives”(NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

イ 単元について

(ア) 教材観

本単元では、日本及び世界の住文化について扱う。本文は、畳やこたつなど日本独特の生活様式に加え、外国の様々な家について知り、自然環境や文化、そこに住む人々と生活との関係について考える内容となっている。普段何気なく使っている日本家屋や日本独自の文化に触れることで、改めて日本のよさに気付く、そのよさを外国の人に伝えたいという意欲を喚起させることができる題材となっている。また Mini-project では、本課で学習した表現を使って、来日予定の留学生に日本文化を紹介する内容となっている。日本文化を扱うことで、自分たちの身近なことや文化に興味を持ち、自国を深く理解させるのに加え、他国の言葉や文化に興味・関心をもたせ、さらに学ぼうとする意欲を育て積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や態度を磨いていく必要がある。

言語材料としては、関係代名詞の主格と目的格が扱われており、それらを用いて自己表現をさせるのに適している題材であると考えられる。

(イ) 生徒観

本学級の生徒は明るく意欲的に授業に参加している。英語に対する興味・関心が高く、学習に対する意欲的な雰囲気がある。男女仲も良く、単語の発音や、教科書の役割読み、ペアワークなどにも積極的に取り組む。自分なりに英語で話そうと努力する生徒も多い。ほとんどの生徒が与えられた課題に真面目に取り組む、互いにアドバイスをし合い、協力し合って課題に取り組む。さらに、長文読解力や作文力を高めようと自分から質問に來たり、休み時間などを利用してALTと積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしたりする姿もよく見られる。

表現活動に対する興味・関心は高く、言語活動は積極的に取り組む生徒が多い反面、「書くこと」に関して、綴りや語順を正確に書くことが難しいと感じている生徒も少なくない。まとまりのある英文を書きたい、書く力を高めたいという意欲は高いので、これまでに学習した表現を生かしながら、毎時間少しずつ英作文に取り組みせ、それらを積み重ねることで、まとまりのある英文を書くことができたという達成感を味わわせ、学習内容の確実な定着を図るために、次の3点を実践している。

第一に、英語に興味・関心をもたせ、4領域をバランスよく配置した授業展開を心掛けるとともに、確実に書く力を付けられるような授業方法を工夫している。具体的には、少人数指導の長所を生かし、個々の生徒への支援を充実させ、「聞くこと」及び「話すこと」に慣れ親しませながら、書く活動の定着を図っている。

第二に、単位時間ではなく、単元を見通した指導としてまとまりのある英文を作成する活動を設定するとき、語彙や文法、英文を段階的に指導するよう工夫している。

第三に、ペアやグループでの言語活動を通した人間関係作りの工夫である。本学級では、ほとんどの生徒が、ペアワークやグループ活動に一生懸命取り組んでいる。ペアやグループでの言語活動を多く行い、人とコミュニケーションを取ることを意識させながら、相手のよさを認め合い、お互いに尊重し合える人間関係が構築できるよう支援していきたい。

(ウ) 指導観

本単元では、外国人に日本文化を紹介する英文の作成に取り組ませる。その際、次の3点から指導を充実させたい。

第一に、課題を解決するために必要な資質・能力の育成を図るために、課題を工夫する。そのために「判断基準」設定の考え方を基に、生徒の到達目標となるまとまりのある英文をあらかじめ想定する。完成させる英文は、1時間で作成させるのではなく、毎時間の授業において、少しずつ作成させるようにすることで、英語に苦手意識をもつ生徒でも、意欲をもって作成できるよう指導していく。

第二に、昨年度から、単元ごとに大きなテーマに基づき、既習の表現を生かしながら、単元と単元を関連付け、5～7文程度の英作文作成に取り組ませてきたことを踏まえ、まとまりのある英文を書くことができたという自信を、今後の「書くこと」の活動に生かしていきたいと考える。このように、これまで学んだ表現を活動の中で実際に使うことで、同じような場面に出会ったとき、間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを図りたいという意欲をもつとともに、「もっと英語で表現してみたい、伝えてみたい」という気持ちを喚起するようにしていきたい。

第三に、協働的な言語活動を取り入れた授業形態の工夫である。日本文化を紹介する表現活動に取り組ませる際に、グループ活動を取り入れる。お互いに活発に意見交換ができる雰囲気を生かし、個で作成した英文の良さを生かしながら、他者との学び合いの中で、更なる内容の充実や、よりよい表現を作り上げていく工夫を図りたい。

言語材料としては、主に関係代名詞を扱う。人や物について詳しく説明するために多用され、この言語材料を活用することで表現の幅を広げることができる。英語による人や物のより詳しい説明の仕方を身に付けさせ、豊かな表現力を育成することが期待できる。生徒の生活に即した内容をくり返し表現させることで表現の定着を図りたい。また、ペア活動やグループ活動でのコミュニケーション活動を多く取り入れながら身に付けさせていきたい言語材料である。

ウ 単元の目標

- (ア) 周りの生徒と協力して、自分の考えを話したり書いたりして、課題を解決しようとしている。
- (イ) 本文の内容に関連し、日本文化を紹介する英文を書くことができる。
- (ウ) 日本や外国の様々な家、自然環境やそこに住む人々の生活文化についての本文内容を理解することができる。
- (エ) 関係代名詞の意味、用法及び表現形式について理解している。

エ 単元の評価規準

1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度	2 外国語表現の能力	3 外国語理解の能力	4 言語や文化についての知識・理解
<p>【言語活動への取組】 ア 相づちを打つなど、相手の話に関心をもち聞いている。 イ 学習した表現を用いて、積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。 ウ 学習した表現を用いて、積極的に紹介文作成に取り組んでいる。</p>	<p>【適切な発話】 ア 相手に分かりやすく日本文化について話している。 【正確な音読】 イ 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。 【適切な音読】 ウ 本文を内容が正しく伝わるよう音読することができる。 【適切な筆記】 エ 日本文化について、これまでに学んだ表現を用い紹介文を書くことができる。</p>	<p>【適切な聞き取り】 ア 本単元の対話や、日本と世界の住文化についての特徴を聞き取ることができる。 【適切な読み取り】 イ 本単元の対話や、日本と世界の住文化についての説明文を読んで、理解することができる。</p>	<p>【言語についての知識】 ア 関係代名詞が文構造として理解できる。 イ 本単元で学習した単語を習得している。 ウ 紹介文の文章構成を理解している。 【文化についての知識】 エ 世界の様々な家の特徴や文化を知ったり、日本文化を考えたりする。</p>

オ 単元の指導計画（全9時間 本時は8/10）

時間	主な学習内容	Writing Activity	単元の 評価規準	指導の重点			
				L	S	R	W
第1時	スキーマ形成, 関係代名詞「主格」の文 構造の確認, 表現活動,	トピックを選んだ理由についての 記述 ※手紙やビデオレターから の情報を基にした記述の活用 I'm going to talk about Japanese food, toshikoshi- soba. Because you said that you like noodles and you want to know about New Year's Food.	4-ア 1-イ・ウ 2-エ		◎		◎
第2時	新出単語の確認(Part1) 本文内容理解 (Part1) 表現活動	これまでの経験を基にした, トピック についての記述 Last year I made toshikoshi-soba with my mother. This was my first time so I enjoyed it very much.	4-イ 2-ア・イ・ウ 2-エ	○		◎	◎
第3時	新出単語の確認(Part2) 本文内容理解 (Part2) 表現活動	トピックについての説明① This is noodles which is called toshiboshi-soba. We eat it on New Year's Eve with our family.	4-イ 2-ア・イ・ウ 2-エ	○		◎	◎
第4時	関係代名詞「目的格」の 文構造の確認 表現活動	トピックについての説明② Toshiboshi-soba is the wish for a 'slim but long and healthy life,' like buckwheat noodles. We also wish for good luck.	4-ア 1-イ・ウ 2-エ		◎		◎
第5時	新出単語の確認(Part3) 本文内容理解 (Part3) 関係代名詞まとめ 表現活動	自己紹介文, 手紙やビデオレターへ の感想の記述 Thank you for your letter. I am very happy to hear that you will come to Japan on Christmas. Please enjoy your stay in Japan. I am ○○. I like watching movies. It's fun. My favorite movie is ○○.	4-イ 2-ア・イ・ウ 2-エ	○		◎	◎
第6時	本文内容理解, Q and A (Read①) 表現活動	おすすめの一言の記述 Why don't you try toshikoshi- soba in Japan on New Year's Eve.	3-ア・イ 2-エ	○		◎	◎
第7時	本文内容理解, Q and A (Read②) 表現活動	Writing Activity で書いた英文の再 構成	3-ア・イ 2-ア・エ	○		◎	◎
第8時	表現活動	・ カテゴリーグループでのプレ ゼンテーション原稿の作成 ・ メモを基にした発表練習	1-ア・イ・ウ 2-エ 4-ウ		◎		◎
第9時	発表 ビデオレター作成		1-ア・イ 2-ア	○	◎		
第10時	文法事項のまとめ 単元テスト		4-ア				◎

カ 本時の実際

(ア) 目標

- a 学習した表現を用いて, 積極的に言語活動に取り組もうとしている。
- b 周りの生徒と協力して, 課題を解決しようとしている。
- c 日本文化紹介の発表原稿を作成することができる。

(イ) 本時の実際

学習過程	時間	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価	
1 Greetings 2 Warm-Up	5	1 日常会話を含んだ挨拶をする。 2 既習表現を用いた活動をする。	○ 英語学習の雰囲気をつくる。 ○ 既習の英文を繰り返し復習する。	
3 Listening	40	3 ビデオメッセージを見る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">Listening Points 新しい課題を聞き取って、グループでさらに英文を書き加える。</div>	○ 学習意欲をもたせ、意欲的に学習に取り組ませる。 ○ 聞き取りの視点を与え、内容把握させる。 ○ 文と文のつながりや文型を意識させながら聞かせる。 ◎ ビデオの内容について理解することができたか。	
4 Grasping Task		4 本時のタスクを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Tess さんに日本文化について紹介するプレゼンテーション原稿を作成しよう。</div>	○ 教師の質問に適切に答えさせる。 ○ 本時のタスクを把握させ、意欲的に学習に取り組ませる。	
5 Confirmation of the lesson		5 本時の授業の流れを把握する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">1 一人で確認、練習 2 カテゴリーグループでの確認 ※ 新しい課題について英文を書き足す。 3 スペシャルグループでの練習 4 カテゴリーグループでの発表原稿の作成 5 一人で練習</div>	○ 原稿を読むのではなく、簡単なメモを基に発表できるよう指導する。 ○ 適切にアドバイスをさせ、自然な英文になるように指導する。 ○ C状況になると予想される生徒への指導を行う。	
6 Practice		6 前回までに作成した英文の再確認をする。簡単なメモを作成する。	○ 発表の仕方（ジェスチャーなど）について確認する。	
7 Group Work 1		7 グループで相互にアドバイスをさせ、紹介文の確認と発表練習をする。	◎ 適切に活動に取り組んでいるか、各グループを巡回して観察する。	
8 Group Work 2		8 エキスパートグループで順番に発表し、相互に鑑賞、アドバイスする。	○ できるだけ多くのまとまりのある英文を表現するように指導する。	
9 Group Work 3		9 カテゴリーグループに戻り、発表原稿を作成する。	◎ 文章構成や文と文のつながりなどを意識して紹介文を作成することができたか。	
10 Self-Expression		10 自分の原稿を再確認し、発表練習をする。	◎ なるべく原稿を見ないで練習できたか。	
11 Conclusion		5	11 本時の学習を振り返る。	○ 本時の内容を整理させ学習内容を定着させる。
12 Assignment			12 次時の予告を聞き、今後の活動の見通しをもつ。	○ 今後の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。
13 Greetings		13 元気よく終わりの挨拶をする。		

(ウ) 評価

- a 学習した表現を用いて、積極的に言語活動に取り組むことができたか。
- b 周りの生徒と協力して、課題を解決できたか。
- c 日本文化紹介の発表原稿を作成することができたか。

キ 指導を振り返っての考察

4技能の統合を意識し、教科書の内容理解を基にインタラクション活動を活発に行い、これまでに学習した内容とのつながりを考えながら、既習事項を用いてテーマについてまとまりのある英文で表現する活動を昨年度継続して行わせた。

まとまりのある英文を作成させる場合、生徒が「書いてみたい」、「伝えたい」と意欲的に喜んで書くことができる課題が重要であることを実感したため、今回は、さらに実生活と関連付けた場面を意識して設定した。実際に外国人からの手紙やビデオレターを活用することで、生徒の興味関心を引き出し、表現したいという意欲を喚起することができ、生徒が喜んで活動に参加することができたと考える。情報の内容も生徒の身近なものであり、量や難易度も生徒が取り組みやすいものであったため、生徒が意欲的に取り組む活動となった。

「判断基準」を基にした「表現させたい生徒の英文例」を設定したことで、一つの単元に対して見通しをもった取組を計画することができ、評価の際も具体的な項目を念頭に評価できるため、評価後に次への指導を計画的に行うことができた。

また生徒にとっても、具体的に「何をどのくらい書くことができればゴールか」が明確になるため、意欲的に活動に取り組むことができたと考える。教師、生徒で共有することにより、ともに到達目標を明確にすることができ、毎時間の帯活動の積み重ねが大きなまとまりのある英文へと発展していくことができたと考える。また、まとまりのある英文を作成させる場合、生徒が「伝えたい」と意欲的に喜んで書くことができる働き掛けが重要であることを改めて感じた。

今回の実践では、「日本文化について知りたい」と訴える身近な人物からの手紙やビデオレターを繰り返し視聴させることによって生徒の意欲を喚起しながら、まずは個人で自己紹介を含む自分が設定したテーマに沿った日本文化紹介文をワークシートにまとまりのある英文として書かせた。それを毎時間同じカテゴリーグループで検討させ、お互いのアドバイスを基に加筆・修正を繰り返させた。単元終末時には、スペシャルグループで本番を意識した発表を行わせ、さらに検討を重ねることにより、内容の充実を図った。検討を重ねた英文をカテゴリーグループに持ち帰り、発表原稿をまとめさせた。ビデオレターによるプレゼンテーションをさせ評価を行った。

「判断基準」を満たしたB状況の生徒は3人、「判断基準」を超えたと認められるA状況の生徒は11人であり、「判断基準」を満たしていないC状況の生徒はいなかった。このことから、新出文型にこだわらず、帯活動を毎時間必ず設定し繰り返し行うこと、これまでに学習した内容で自由に表現させることを大切にしながら繰り返し指導を行うことが大変効果的であると考えられる。また、A状況の生徒が今回11人もいたということは、実際に外国人からの手紙やビデオレター視聴を取り入れたことにより、生徒の意欲を喚起できたことは大きい。また聞き取った内容を生かして自分の考えを述べるという活動も、毎日の授業の中でインタラクションを繰り返し行っていたことで、生徒が自然と活動に参加できた理由の一つだと考えられる。生徒が表現したいという気持ちを喚起できるようなテーマの設定を更に精選し、このような活動を積極的に取り入れることにより、更なる文章の発展が望まれると考える。

ク 評価結果に基づく補充・深化指導

(ア) 「判断基準」に基づき、「努力を要する」と判断した生徒について

今回は該当する生徒はいなかったが、黒板に示したポイントを再度確認させ、自分の表現に加えるべき表現に気付かせるとともに、書き上げた英文をペアやグループ内で発表させ、互いに助言し合う時間を設定する。

(イ) 「判断基準」に基づき、「おおむね満足できる」と判断した生徒について

<p>Thank you for your video letter. I'm ○○. Please call me ○○. I like to play baseball very much. My favorite baseball player is Ichiro. I think he is the best baseball player.</p> <p>This is soba. Do you know soba? We call it buck wheat noodles in English. Japanese people eat toshikoshi-soba on New Year's Eve with our family. We wish for a long life and good luck.</p> <p>I don't eat toshikoshi-soba every year. But last year my brother and I ate it at my grandmother's house. Why don't you cook toshikoshi-soba? Thank you.</p>
--

文章全体を通して、「判断基準」を満たしているため、この英文はB状況にあると判断した。日本文化を紹介するための表現や自己紹介の表現など、既習単元での学習内容も生かされている。この生徒に対しては、接続詞を効果的に用いている生徒や、視聴したビデオメッセージの内容について自分の考えや感想などの表現を付け加えている生徒の英文を紹介することで、ビデオメッセージを送った相手のことを考えた表現につながることを指導した。

4 成果と課題

(1) 成果

- 「書くこと」という自己表現活動において「判断の要素」や「判断基準」を生徒自身に考えさせ、生徒と教師が共有し設定したことにより、到達目標が明確に示され、生徒にとって取り組みやすくなった。
- 教師と生徒、生徒同士のインタラクションを繰り返し行ったことで、書く活動に抵抗なく取り組むことができた。
- 既習の表現を活用させるために毎時間帯活動を生かしたペアやグループでの対話活動を取り入れることで計画的な指導が定着し、活動を充実することができた。さらにお互いに助言することで、英文の更なる発展へとつながった。
- 既習単元の新出文法事項では書く活動に対して、はじめから苦手意識をもっていた生徒も、毎時間の帯活動の積み重ねや学習形態の工夫により、まとまりのある英文を書くことができた。書けたという達成感を味わわせることができ、これからも苦手意識をもちに書いてみようという意欲をもたせることもできたと考える。
- 相手に伝えたいという気持ちが表れており、全員が生き生きと活動することができた。
- ニューヨークについて知りたいことを生徒に考えさせ、質問を作らせた。ビデオレターで質問と解答を繰り返させることにより、自分の英語が伝わる喜びを実感させるとともに、自信をもたせることにつながった。また世界に目を向けることで外国へ興味・関心をもち、自分自身を発信したいと言う気持ちを喚起させ、更なる自己表現の場がもてるようこの活動を生かしていきたいと考える。

(2) 課題

- △ 3年間を見通した自己表現活動の設定が必要である。
- △ 生徒が書きたい、伝えたいと思うことができるような生徒に身近な課題設定が必要である。
- △ 4技能を統合的に活用させる活動を工夫する必要がある。

事例発表(3)

課題を解決するために必要な資質・能力を育成する授業に関する研究 —第1学年「読んで理解したことを基にした自己表現活動」の実践を通して—

鹿児島県立加治木高等学校
教諭 瀧山 完二

1 はじめに

本校は2年後に創立120周年を迎える伝統校である。全学年普通科8学級(第2・3学年生は、文系4学級、理系4学級)で構成されており、全校生徒数は男子466人、女子489人、計955人である(平成27年4月1日現在)。

ほとんどの生徒が国公立大学への進学を希望し、ほぼ全員がセンター試験を受験する。そのため英語科では、センター試験(筆記)において全国平均点を7.0点上回ることを目標としている。また第3学年の6月からは毎日「放課後リスニング(15分程度)」を実施し、リスニング力の向上にも努めている。

また、本校英語科では、生徒が意欲的に、自らすすんで学習に取り組むことができるように、「協働学習」を取り入れた授業を実践してきており、積極的にペアやグループ学習の形態を取り入れている。協働学習とは、「小集団(small group)を活用した教育方法で、生徒たちが一緒に取り組むことによって自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとするものである。学習者を小集団に分け、その集団内の互恵的な相互依存関係(positive interdependency)を基に、協働的な学習活動を起こさせる技法」(Johnson, Johnson, & Holubec 1993)である。

協働学習を行うことにより、生徒同士による学び合いの機会が増え、授業がより活性化することが期待される。また、その結果、生徒が課題解決に向けて主体的に取り組み、達成感や成就感を得ることができるような授業設計を行った。

2 授業設計の考え方

(1) 外国語科(英語科)において生徒に身に付けさせたい資質・能力

外国語科における目標は「コミュニケーション能力の育成」である。そのためには、評価の4観点に示されている、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語表現の能力、③外国語理解の能力、④言語や文化に関する知識・理解、を身に付けさせる必要があると考える。従ってこれらのことを、生徒に身に付けさせたい資質・能力であると捉える。授業設計の際に授業におけるそれぞれの学習活動を評価のどの観点に基づいて実施するのかを考慮し、それらをバランス良く配列することで、コミュニケーション能力の育成に不可欠な資質・能力を確実に育成することができると思う。

(2) 授業において取り組ませるべき課題の在り方

(1)を育成するためには、教科書等の内容を的確に理解した上で、自分の考えなどを聞き手を意識しながら適切に表現させるような、技能の統合的な活用を図る課題が効果的である。また、生徒同士による学び合いの場を設定することで、その表現活動はより豊かなものとなり、生徒の達成感や成就感につながると考える。今回の授業では「山口さんの経歴についての文章を聞いたり読んだりした後に、山口さんの夢とそれに対する自分の考えを書く」という課題を設定した。普段の授業では、「本文の内容を理解し、その要約を英語でまとめる」ことを重点的に指導してきたが、教科書の内容に関連して自分の感想や意見を書いて表現し、

生徒同士でお互いにその作品を鑑賞することで、生徒により深く考える機会を与えることができる考えた。

(3) 4技能を統合的に活用させる指導の工夫

4技能を統合的に活用させるには、まず4技能全てに関する活動が行われる必要があると考える。それ故、今回の授業では、**warm-up**においてはスピーキング、復習においてはリーディング（音読）、メインの活動はリスニング、さらに、自分の意見や考えを書くライティングの活動を行い、4技能がバランス良く授業に収まるように工夫した。

また、本校では、センター試験や大学入試を意識したインプット重視の指導を行っていたため、英語で自分の考えや意見を表現させるアウトプットの機会が少ないという課題があった。毎回の授業で、アウトプットを引き出す所まで行けなくとも、単元の終末段階には、教材の内容（インプット）を踏まえた、生徒のアウトプットを引き出す活動を用意したいと考えた。そこで、技能統合が有機的に行われるように、今までに読んできた教科書の内容と今回聴いた内容（リーディング・リスニング）を踏まえた上で、生徒に自分の意見や考えを書かせる活動（ライティング）を設定した。

(4) 主体的・協働的学習を効果的に促す工夫

主体的・協働的に学習に取り組ませるために、自分の書いた作品をグループで発表し、その後グループでお互いに修正・加筆し、ベストの作品の一つ作り、全体に発表するという形を用いた。こうすることで、個人と集団がベストを尽くし、よりよい作品を作り上げるためにお互いに助言や協力をしながら課題に取り組むことができる。その結果一人の力では到達できないような作品を作り出すことができると考えた。

また、自分の意見や考えを書く課題を設定した際には、ワークシートに「書き終えた後は次の項目をチェックするように」というチェックリスト（「判断基準」：生徒の表出した英文の中にどのようなことが書かれてあればおおむね満足できる状況であるのかを判断するために、具体的な要素を示したもの）を用意し、教師と生徒でそれを共有することが効果的である。これにより、生徒は自分の書いたものが適切に書かれているかを自己評価でき、またグループでベスト作品を仕上げる際にも、相互評価の場面でその作品の妥当性を判断できる。

「判断基準」を生徒に提示することによって、生徒は課題解決に向けて見通しをもつことができ、どのような言語材料を用いてどのようなことを書けばいいのかが明らかになり、課題に対して意欲的に取り組むことができると考える。また、グループ活動を通じた相互評価の場面で、評価の視点が共有化され、お互いに適切な助言を与えることができ、協働的な学びを活性化できると考えた。

現行の高等学校学習指導要領では、「授業は英語で行うことを基本とする」という方針が盛り込まれている。しかしながら、生徒の日本語による思考力と英語による表現力は大きくかい離していることが多い。教科書の題材は、平和、人権、環境、人間愛など内容が豊かで、考えさせられる内容が多いため、協働学習に必要な高度な意思疎通や議論を深めるには日本語の使用が効果的である場合も多い。そこで、グループ内での話し合いの場では日本語の使用を認め、プレゼンテーションの場面では英語使用を促すなど、使用言語については柔軟に対応している。

3 検証授業（9月29日（火）3限目 10：50～11：40）

- (1) 単元名 ELEMENT English Communication I （啓林館）
Lesson 4 Twice Bombed, Twice Survived（二重被爆）

(2) 単元について

ア 教材観

日本に投下された二つの原子爆弾に遭遇し、かつそれを生き延びた日本人がいた。彼の名は山口彊。彼は広島への出張中に被爆し、郷里長崎に帰った際にも被爆した。彼は肉体的にも精神的にも傷付きながらも、その後の人生を自分の過酷な人生と平和への願いを公共の場で語ることに費やした。自分の経験を若い世代に伝えることこそ自分の使命だと信じて行動した山口さんの思いや生き方を読み取ることを通して、生徒に平和の大切さについて考えを深めさせることができる教材である。

イ 生徒観

授業対象生徒は、第1学年選抜クラスの40人である。学習に対する基本的な態度が身に付いており、高い英語力を有している。加えて、ほとんどの生徒が授業に積極的に取り組んでおり、英語学習に対する関心や動機付けも高い。自学自習にもしっかりと取り組める集団である。入学当初は、おとなしすぎる印象があり、グループ活動にもやや消極的な面があったが、学校行事や日々の協働学習を通して、仲間と協力して学ぼうという姿勢が見られるようになってきている。

ウ 指導観

「生徒に英語を教える」というよりは「生徒に英語の学び方を教える」ということに主眼を置いている。英語学習を継続させていくのは生徒自身であるので、生涯にわたり主体的かつ協働的に学び続けることができる「自律的な学習者」へと生徒を育成したいと考えている。そのため、生徒たちに成就感・達成感を味わわせることで、動機付けをより一層高められるように努力している。

(3) 単元の目標

- ア 級友と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする。
- イ 山口さんの夢や平和についての自分の考えを英語で表現する。
- ウ 教材を読んだり聞いたりして、山口さんの生き方や夢について理解する。
- エ 教材で使われている単語やその運用についての知識を身に付けている。

(4) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
授業において質問に積極的に答えようとする。また、積極的に自分の意見を表現したり他者の意見を聴いたりしようとする。	① 本文の概要を英語で表現することができる。 ② 山口さんの夢や平和について自分の意見を表現することができる。	① 本文の内容に込められた思いを読み取ることができる。 ② Listening Activity における会話の内容を理解することができる。	① 本文で使われている単語やその運用についての知識を身に付けている。 ② 助動詞＋受動態、過去完了形等の文構造を理解している。

(5) 指導と評価の計画（全8時間）

時	指導のねらいと学習活動	評価規準	評価方法
1	○ 全体の概要や要点を捉える。 各 Part を通読しながら、日本語要約の空所補充をし、課全体の概要を把握させる。	ウの①	活動の観察 ワークシート
2	○ Part 1 の内容を読み取る。 内容に関する Q & A, 精読, 音読練習を通して, Part 1 の内容を理解させる。 Retelling 活動を通して, 本文の要約を作らせる。	ウの① エの①② イの①	活動の観察 ワークシート
3	○ Part 2 の内容を読み取る。 内容に関する Q & A, 精読, 音読練習を通して, Part 2 の内容を理解させる。 Retelling 活動を通して, 本文の要約を作らせる。	ウの① エの①② イの①	活動の観察 ワークシート
4	○ Part 3 の内容を読み取る。 内容に関する Q & A, 精読, 音読練習を通して, Part 3 の内容を理解させる。 Retelling 活動を通して, 本文の要約を作らせる。	ウの① エの①② イの①	活動の観察 ワークシート
5	○ Part 4 の内容を読み取る。 内容に関する Q & A, 精読, 音読練習を通して, Part 4 の内容を理解させる。 Retelling 活動を通して, 本文の要約を作らせる。	ウの① エの①② イの①	活動の観察 ワークシート
6	○ Listening Practice 教材の概要を捉える。 ○ 山口さんの夢について自分の意見・考えを 5 文以上の英文で書き, それをグループで発表させる。その後, グループでお互いの修正を加え, ベスト作品を全体で発表させる。	ウの①② イの② ア	活動の観察 ワークシート 作品チェック
7	○ 第 6 時に書いた英文を rewrite する。 ・ 文法上の誤りなどを指摘し合わせる。 ・ 判断基準に基づいて, 英文を磨かせる。	ア エの①②	活動の観察 ワークシート 作品チェック
8	○ Lesson 4 の総復習を行う。	ウ① エ①②	解答チェック

(6) 本時の学習活動（6 / 8 時間）

ア 目標

教科書本文及び Listening Practice で聞き取った山口さんの経歴と反核兵器運動の活動についての内容を基に, 山口さんの夢について自分の意見・考えを 5 文以上の英文で書き, それをグループで発表する。その後, グループでお互いの修正・加筆をし, ベスト作品を全体で発表する。

イ 本時の実際

学習過程	学習活動	分	○指導上の留意点 □評価
1 挨拶 2 Warm-up 3 復習	1 挨拶をする。 2 SPEED DATING SHEET を使ってペアで対話活 動を行う。 3 直読直解シートを使用 して音読練習をする。	9	○ 英語学習の雰囲気を作る。 ○ 意味を考えながら音読でき ているか確認する。
4 リスニン グ活動	4 山口さんについての 会話を聞きその概要を 理解する。 Q&A (教科書), ディク テーション(ワークシート) に取り組む。 山口さんが行った反 核兵器運動を列挙する。 ①He wrote a book about his experiences. ②He appeared in a 2006 documentary movie. ③He made a speech at the United Nations.	15	○ 最初は,何も見せずに聞かせ, 2回目は教科書に書かれてい るQ&Aを解かせながら,聞かせ せる。 □ 会話の内容について理解する ことができたか。 ○ 3回目は,音声スクリプトの 空所補充に取り組ませる。 ○ 音声スクリプトに書かれてい る山口さんの反核兵器運動を列 挙させる。
5 表現活動	5 それらの活動に至っ た山口さんの夢とはど のようなものだったか 考え, 英文を書く。	25	○ 最初に自分の考えを独力で書 かせる。

3 Yamaguchi-san did these things to realize his dream. What do you think his dream was? And what do you think about his dream? Please write your own opinions in at least five sentences.

【教師が想定した英文】

I think his dream was to make a world without nuclear weapons. I agree with him. The suffering in Hiroshima and Nagasaki should never happen again. I want people around the world to live in a peaceful world. We need no nuclear weapons.

After writing, please check the following things:

山口さんの夢とは何かを述べている。
 それについて賛成か反対かを述べている。
 そう思う理由や意見を述べている。
 5文以上の英文で書いている。

	次に、それをグループで発表し、お互いに修正・加筆をし、グループでベスト作品を仕上げる。 最後に、グループで仕上げた作品を全体の前で発表する。	○ 次に、それをグループで発表させ、お互いに修正・加筆をさせ、グループでベスト作品を仕上げさせる。 □ 適切に活動に取り組めているか、各グループを巡回して観察する。 ○ 最後に、グループで仕上げた作品を全体の前で発表させ、用意していた【教師が想定指定していた英文】を示す。
6 挨拶	6 挨拶をする。	

4 検証授業における児童生徒の姿

山口さんの経験や平和に対する思いや夢について、4人グループでの話合いを通して要点をまとめ、自分の考えを含めて英文で表現できることを、目指す生徒の姿として想定した。

前半のリスニング活動は、いつもの授業で行っているリスニングの流れ（概要把握→内容に関する英問英答→ディクテーション）と同じだったこともあり、生徒たちは何をすべきかが明確に分かっており、スムーズに流れた。授業後半の表現活動においても、今まで本文の内容を要約させ、グループでベスト作品を作らせる活動は行っていたので、生徒同士が活発にインタラクションをする場面が見られた。ただ、これまでは読んだ内容をまとめる活動を重点的に実施しており、それについての自分の意見や考えを述べさせるような活動は実施していなかったため、自分で英文を作ることに予想以上に苦戦していた。しかし、英文作成におけるチェックリスト（「判断基準」）を明示していたことと、書くべき内容について自分の意見や考えを持っていたことで、生徒たちはグループでの作品を仕上げ、全体で発表する活動まで実施することができた。そして、全てのグループが個人で書いた英文よりも質・量ともに優れた英文を書くことができた。

【生徒が個人で表現した英文】

I agree with him. Because I hope that we never use and have atomic bombs, too. I want the world to be peaceful. And I pass on his dream to young people.



【話合いによりグループで表現した英文】

I think his dream was to convey the importance of peace to young people. I agree with him. We should tell it to not only Japanese people but also people around the world. I hope that we should never have or use atomic bombs. I want the world to be peaceful.

授業後に生徒の内発的動機付けに関するアンケートを行った。内発的動機付けとは、「引き起こされる活動それ自体（英語を学ぶこと）が目標であり、何かのためにするのではなく、その活動をしたからする」という動機付けである。そして、動機付けに関する研究においては、この内発的動機付けが言語学習の成功に大きく関わっていることが指摘されている（Dornyei 1998; Dornyei & Csizer 1998）。今回のアンケート項目は、内発的動機付けが高まる（自己決定的になる）ための要因に関するものである。1の感情に関する項目では、ほぼ全ての生徒が夢中になって取り組んだと回答した。また、2の自律性（autonomy）、3の有能さ（competence）、そして4の関連性（relatedness）に関する項目においてもほぼ9割の生徒が「大体あてはまる」、「よく当てはまる」と回答した。このことから、聞いたり読んだりして理解したことについて、自分の意見や考えを表現する活動に協働的に取り組むことによって、生徒たちの知的好奇心は満たされ、達成感や成就感を感じることができたことが分かる。

英語学習に関するアンケート（9月30日（水）実施 検証授業参加生徒35人回答）

項目	1	2	3	4
1 本時の活動に夢中になって取り組んだ。	0人	1人	14人	20人
2 本時の活動のやり方に工夫して取り組むことができた。	0人	4人	22人	9人
3 本時の活動で達成感や成就感を味わうことができた。	0人	3人	15人	17人
4 本時の活動にグループの仲間と協力して取り組んだ。	0人	1人	10人	24人

1 … 全く当てはまらない	2 … あまり当てはまらない
3 … 大体当てはまる	4 … よく当てはまる

5 成果と課題

(1) 成果

協働学習の形態を取ることで、仲間と安心して失敗でき挑戦できる環境で、一人の力では到達できない内容の英文を作成することができたことである。表現活動において、「判断基準」を設定したことにより、何をどのように書けば良いかが明確になり、まとまりのある英文作成に意欲的に取り組ませることができた。このように、課題解決の見通しをもたせた上で学び合いが行われる場面を設定したり、振り返りの場面で相互評価を行わせたりすることで、課題解決に必要な資質・能力を高めるための活動を充実させることができたことが分かった。また、生徒たちの意欲面においても向上が見られた。

(2) 課題

英文作成の達成度をみる「判断基準」を今回は教師側で一方向的に用意したが、生徒たちがより一層「判断基準」を意識するように、「判断基準」を最初に生徒に考えさせ、それをリストアップし、ライティングの活動に移っていく取組も必要であるように思われた。また、生徒の情意面の変化を見取るような指導の工夫をより充実させ、今後の授業ではこれらの課題に留意しながら、生徒が主体的に協働的に学べる授業展開をより一層工夫していきたい。